

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	学部の設置									
フリガナ設置者	ガッコウホウシニイハツカカクギジユウカクエン 学校法人 新潟科学技術学園									
フリガナ大学の名称	ニイハツヤクガク 新潟薬科大学 (Niigata University of Pharmacy and Medical and Life Sciences)								※英訳名称は、左記に変更予定。	
大学本部の位置	新潟県新潟市秋葉区東島字山居265番地1									
大学の目的	新潟薬科大学は、生命の尊厳に基づき、医療科学及び生命科学両分野の教育と研究を通して、人々の健康の増進、環境の保全、国際交流や地域社会の発展に貢献する高い専門性と豊かな人間性を有する有為な人材の育成とともに、社会の進歩と文化の高揚に有益な研究成果の創出を理念とする。 本学は、教育基本法及び学校教育法に基づき、前項の理念に沿った教育と研究を行うことを目的とする。									
新設学部等の目的	看護学部看護学科は、新潟薬科大学の建学の精神である「実学一体」を基本として、医療人に適う倫理観と豊かな人間性を持ち、看護学に関わる専門知識・技術の習得とそれに基づく実践力を身に付け、医療の進展に資する研究心を有し、地域における人々の健康増進並びに公衆衛生の向上に貢献する看護師・保健師を育成することを目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	西新潟中央病院キャンパスは、現在系列校である新潟医療技術専門学校（西新潟中央病院キャンパス）の校舎を本学看護学部用に転用する。現在、同キャンパスを使用している同校の臨床検査技師科及び看護学科は、令和6年度末に廃止予定であり、令和5・6年度のみ共用予定。	
	看護学部 [Faculty of Nursing]	年	人	年次人	人	学士 (看護学) [Bachelor of Nursing]	令和5年4月 第1年次	[1年次] 新津キャンパス (新潟県新潟市秋葉区東島字山居265番地1) [2～4年次] 西新潟中央病院キャンパス (新潟県新潟市西区真砂1丁目14番65号)		
	看護学科 [Department of Nursing]	4	80	-	320					
計		80	-	320						
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	新潟薬科大学 薬学部薬学科〔定員減〕 (△50) (令和5年4月) 応用生命科学部 生命産業創造学科〔定員減〕 (△15) (令和5年4月) 医療技術学部臨床検査学科 (80) (令和4年3月認可申請) 令和5年4月 学科の名称変更予定 応用生命科学部 生命産業創造学科→生命産業ビジネス学科									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数			
	看護学部 看護学科	79科目	17科目	16科目	112科目	128単位				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等						兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等	
	新設	看護学部 看護学科	10人 (6)	4人 (1)	2人 (0)	8人 (1)	24人 (8)	5人 (0)	56人 (45)	令和4年3月 認可申請
		医療技術学部 臨床検査学科	9 (8)	2 (1)	3 (3)	3 (3)	17 (15)	1 (0)	33 (16)	
		計	19 (14)	6 (2)	5 (3)	11 (4)	41 (23)	6 (0)	-	
	既設	薬学部 薬学科	17 (19)	13 (13)	0 (0)	7 (7)	37 (39)	5 (5)	27 (27)	令和4年3月 名称変更届出予定
		応用生命科学部 応用生命科学科	9 (9)	4 (5)	1 (1)	4 (4)	18 (19)	3 (3)	33 (33)	
		応用生命科学部 生命産業ビジネス学科	5 (5)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	1 (1)	32 (32)	
		学生支援総合センター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	
		計	31 (33)	20 (21)	1 (1)	12 (12)	64 (67)	10 (10)	-	
合計		50 (47)	26 (23)	6 (4)	23 (16)	105 (90)	16 (10)	-		

教員以外の職員 の概要	職 種		専 任	兼 任	計	大学全体		
	事 務 職 員		40人 (40)	13人 (13)	53人 (53)			
	技 術 職 員		2 (2)	— (—)	2 (2)			
	図 書 館 専 門 職 員		2 (2)	1 (1)	3 (3)			
	そ の 他 の 職 員		— (—)	— (—)	— (—)			
	計		44 (44)	14 (14)	58 (58)			
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	新津キャンパス [校舎敷地] 借用面積：23,728.44㎡ 借用期間：平成17年3月から平成46年3月までの29年間 [その他] 借用面積：3,026㎡ 借用期間：平成21年4月から平成46年3月までの25年間 新津駅東キャンパス [校舎敷地] 面積：2,280.00㎡ 西新潟中央病院 キャンパス [校舎敷地] 借用面積：7,129.43㎡ 借用期間：平成28年2月から令和28年1月までの30年間 新潟医療技術専門学校と共用(令和5年度および令和6年度のみ) 収容定員：360人 基準校舎面積：2,360㎡		
	校 舎 敷 地	65,786.55㎡	4,630.43㎡	0㎡	70,416.98㎡			
	運 動 場 用 地	14,941.06㎡	0㎡	0㎡	14,941.06㎡			
	小 計	80,727.61㎡	4,630.43㎡	0㎡	85,358.04㎡			
	そ の 他	23,316.53㎡	2,499.00㎡	0㎡	25,815.53㎡			
	合 計	104,044.14㎡	7,129.43㎡	0㎡	111,173.57㎡			
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体		
		40,953.86㎡ (35,960.06㎡)	0㎡ (2,870.6㎡)	0㎡ (2,123.27㎡)	40,953.86㎡ (40,953.93㎡)			
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
	30室	3室	24室	1室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員 0人)			
専任教員研究室		新設学部等の名称 看護学部 看護学科		室 数 20室(うち共同教員室3室)		専用		
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	図書・学術雑誌 学部単位での特定不能のため、 大学全体の数 機械・器具、標本 看護学部のみ
	看護学部 看護学科	61,350 [10,405] (59,580 [10,402])	432 [240] (368 [240])	80 [80] (80 [80])	821 (701)	4,550 (4,379)	24 (24)	
	計	61,350 [10,405] (59,580 [10,402])	432 [240] (368 [240])	80 [80] (80 [80])	821 (701)	4,550 (4,379)	24 (24)	

図書館		面積		閲覧座席数		収納可能冊数		大学全体	
		1,417.95㎡		291席		93,000冊			
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体	
		1,530㎡		テニスコート3面					
経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	共同研究費等には受託研究費を含む。 図書購入費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コストを含む）を含む。
	教員1人当り研究費等		300千円	300千円	300千円	300千円			
	共同研究費等		300千円	300千円	300千円	300千円			
	図書購入費	8,135千円	12,068千円	9,334千円	10,400千円	11,200千円			
	設備購入費	0千円	97,234千円	0千円	0千円	0千円			
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,950千円	1,650千円	1,650千円	1,650千円	—千円	—千円		
学生納付金以外の維持方法の概要			上記以外の収入としては、私立大学等経常費補助金、科学研究費補助金をはじめとする競争的研究資金、民間企業からの奨学寄付金等がある。						
大学の名称		新潟薬科大学							
学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
薬学部		年	人	年次人	人		倍		新潟県新潟市秋葉区東島字山居265番地1
薬学科		6	180	-	1,080	学士(薬学)	0.73	昭和52年度	同上
応用生命科学部							0.72		同上
応用生命科学科		4	120	-	480	学士(応用生命科学)	0.82	平成14年度	同上
生命産業創造学科		4	60	-	240	学士(応用生命科学)	0.54	平成27年度	新潟県新潟市秋葉区新津本町1丁目2番37号
薬学研究科 薬学専攻 博士課程		4	3	-	12	博士(薬学)	0.74	平成7年度	新潟県新潟市秋葉区東島字山居265番地1
応用生命科学研究科 応用生命科学専攻 博士前期課程		2	8	-	16	修士(応用生命科学)	0.87	平成18年度	同上
博士後期課程		3	3	-	9	博士(応用生命科学)	0.33	平成21年度	同上
大学の名称		新潟工業短期大学							
学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
自動車工業科		2	120	-	240	短期大学士(工学)	0.82	昭和43年度	新潟県新潟市西区上新栄町5丁目13番7号
附属施設の概要		[薬用植物園] ・本園（新潟県新潟市秋葉区東島）昭和54年4月設置 用地3,026㎡、管理棟125.24㎡ ・新潟薬科大学薬学部附属薬用植物園（新潟県阿賀野市畑江）昭和61年1月設置 自然薬用植物園として、用地3,000㎡ [薬草・薬樹交流園] ・本園（新潟県新潟市秋葉区さつき野4丁目）平成26年10月設置 用地2,974.53㎡、管理棟23.35㎡							

教育課程等の概要																
(看護学部看護学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養に関する科目	スタートアップセミナー	1前	2			○			3				1		オムニバス・共同（一部） ※演習	
	社会学	1前	1			○								兼1		
	人間関係論	1前	1			○			1	1					オムニバス・共同（一部）	
	医療倫理	1前	1				○							兼1	※講義	
	文化人類学	1後	1			○								兼1		
	音楽と健康	1前		1		○								兼1	※演習	
	心理学	1後		1		○								兼1		
	教育学	1後		1		○								兼1		
	日本国憲法	4前		2		○								兼1		
	自然科学	環境と健康	1前	1			○								兼1	
		食物と健康	1後	1			○								兼2	オムニバス
		薬と健康	1後	1			○								兼3	オムニバス・共同（一部）
		情報リテラシー基礎	1前	2			○								兼2	オムニバス ※演習
		情報リテラシー応用	1後	2				○							兼5	オムニバス・共同 ※講義
		歯と健康	4前		1		○								兼1	※演習
		漢方とサプリメント	4前		1		○								兼1	
	体育	スポーツ	1前		1				○						兼2	共同
		健康とスポーツ	4前		1				○						兼1	※講義
	外国語	英語 I	1前	2			○								兼1	※演習
		英語 II	1後	1			○								兼1	※演習
		英語 III	3前	1				○		1						
		中国語	1通		2		○								兼1	※演習
		ロシア語	1通		2		○								兼1	※演習
		ドイツ語	1通		2		○								兼2	共同 ※演習
		小計 (25科目)	—	17	17	0	—			4	1	0	1	0	兼30	—
	専門教育に関する授業科目	人体の構造と機能 I	1前	2			○								兼1	
		人体の構造と機能 II	1前	2			○								兼1	
人体の構造と機能 III		1後	1			○								兼1		
疾病の原因と成り立ち		1後	2			○								兼1		
疾病の予防と治療 I		1後	2			○								兼1		
疾病の予防と治療 II		2前	2			○								兼4	オムニバス	
疾病の予防と治療 III		2前	1			○								兼1		
薬理学と薬剤管理		1後	2			○								兼2	オムニバス・共同（一部）	
感染症と微生物		2前	1			○								兼1		
栄養学		2前	1			○								兼1		
医療と看護の歴史		1前	1			○			2						オムニバス	
家族看護学	1後	1			○			1								
公衆衛生学	1後	2			○								兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
(専門基礎科目)	健康と社会環境	臨床心理学	1後	1			○								兼1	オムニバス ※演習
		人間工学	2前	1			○								兼1	
		社会保障と法	2前	1			○								兼1	
		多職種連携	2後	1			○		5							
		疫学	3前	2			○								兼2	
		ケアの基本理念	1後		1		○		1							
		在宅医療	1後		1		○								兼1	
		保健医療福祉行政論	3前		2		○								兼1	
		保健統計学	3前		2		○		1							
		ボランティア論	4前		1		○		1							
小計 (23科目)		—	26	7	0	—			8	0	0	0	0	兼18	—	
専門教育に関する授業科	基礎看護学	看護学原論	1前	2			○		1						※演習	
		看護の基本技術	1後	1			○		1							
		援助の人間関係論	1後	1			○		1							
		看護倫理学	2前	1			○		1							
		生活支援技術論	2前	2			○			1						
		治療過程支援技術論	2前	1			○			1						
		ヘルスアセスメント演習	2前	1				○	1	1		1	3	共同		
		看護過程展開技術演習	2後	1				○	1	1		1	3	共同		
		生活支援技術演習	2通	2				○	1	1		1	3	共同		
		治療過程支援技術演習	2後	1				○	1	1		1	3	共同		
		基礎看護学実習Ⅰ	1前	1					○	10	4	2	8	5		共同
		基礎看護学実習Ⅱ	2後	2					○	10	4	2	8	5		共同
	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	2後		2		○		1						※演習	
		公衆衛生看護活動論Ⅰ※	3前		2		○			1					※演習	
		公衆衛生看護活動論Ⅱ※	3前		2		○		1	1					オムニバス・共同 (一部)	
		公衆衛生看護管理論※	3前		2		○		1						※講義	
		公衆衛生看護政策論※	4前		1		○		1	1					オムニバス	
		公衆衛生看護学演習※	4前		1		○		1	1					※演習	
		公衆衛生看護学実習Ⅰ※	4前		2			○	1	1					オムニバス・共同 (一部)	
	公衆衛生看護学実習Ⅱ※	4前		3			○	1	1					共同		
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論	1後	2			○		1						オムニバス ※演習	
		地域・在宅看護論	1後	2			○		5	1						
		地域・在宅看護関係法規	2前	1			○		2							
		地域・在宅看護技術演習	2前	2				○	5	1	1		2	オムニバス・共同 (一部)		
		在宅看護論実習	2後	2				○	10	2	1	7	5	兼4 共同		
		健康生活自己管理支援実習	3後～4前	2				○	5	1	1		3	共同		
	成人看護学	成人看護学概論	2前	1			○		1						兼2 オムニバス	
		健康の慢性的揺らぎのある成人の看護	2前	2			○		1							
急激な健康破綻をきたした成人の看護		2後	2			○		1								
成人看護技術演習		3前	1				○	2			2	3	共同			
健康の慢性的揺らぎのある成人の看護実習		3後～4前	2				○	1			3	1	共同			
急激な健康破綻をきたした成人の看護実習		3後～4前	2				○	1			3	1	共同			
老年看護学概論		2前	1			○		1	1					オムニバス		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
目（専門教育科目）	老年看護学	老年の疾病と治療	2前	1			○			1					兼1 オムニバス・共同（一部） ※演習 共同 ※講義 共同	
		老年看護学実践論	2後	1			○			1	1	1				
		老年看護技術演習	3前	1				○		1	1	1	2			
		老年看護学実習	3後	2					○	1	1	1	1			
	小児看護学	小児看護学概論	2前	1			○			1						兼1 オムニバス・共同（一部） 共同 共同
		小児の疾病と治療	2前	1			○			1	1		1			
		小児看護学実践論	2後	1			○			1	1		1	2		
		小児看護技術演習	3前	1				○		1	1		1	2		
		小児看護学実習	3後～4前	2					○	1	1		1			
	母性看護学	母性看護学概論	2前	1			○			1						兼1 オムニバス 共同 ※講義 共同
		女性の疾病と治療	2前	1			○			1						
		母性看護学実践論	2後	1			○			1			3	2		
		母性看護技術演習	3前	1				○		1			3	2		
		母性看護学実習	3後～4前	2					○	1			3			
	精神看護学	精神看護学概論	2前	1			○			1						共同 共同
		精神の疾病と治療	2前	1			○			1						
		精神看護学実践論	2後	1			○			1						
		精神看護技術演習	3前	1				○		2				2		
		精神看護学実習	3後	2					○	2				2		
	看護統合と課題探究	チーム医療論	3前	1			○			4						オムニバス 共同 共同 オムニバス・共同（一部） ※演習 共同 共同 ※演習 兼1 オムニバス オムニバス・共同（一部）
チーム医療実習		4前	2					○	10	4	2	8	5			
看護管理学		3前	2			○			1							
看護管理学実習		4後	2					○	10	4	2	8	5			
看護研究の基礎		3前	1			○			10	1						
看護研究演習Ⅰ		3後	1				○		10	4						
看護研究演習Ⅱ		4通	2				○		10	4						
災害看護学		4前	1			○			1							
国際看護学		4前	1			○			1							
看護教育学		4前		1		○			1							
新たな医療と看護の課題		4前		2		○			6	1						
新潟の医療と看護の課題	4前		1		○			1			3					
小計（64科目）	—	74	19	0	—	—	—	10	4	2	8	5	兼9	—		
合計（112科目）			—	117	43	0	—	—	10	4	2	8	5	兼56	—	
学位又は称号	学士（看護学）		学位又は学科の分野				保健衛生学関係（看護学関係）									
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
「教養に関する科目」から必修科目17単位+外国語選択科目2単位以上+その他の選択科目3単位以上、「専門教育に関する授業科目（専門基礎科目）」から必修26単位+選択4単位以上、「専門教育に関する授業科目（専門教育科目）」から必修74単位+選択2単位以上の計128単位以上を修得することとする。 保健師国家試験受験資格取得のためには、「公衆衛生看護学領域」の全科目及び「保健医療福祉行政論」「保健統計学」を履修し、卒業要件単位と合わせて141単位以上を修得することとする。 （履修科目の登録の上限：48単位（年間）） ※「公衆衛生看護学領域」の「公衆衛生看護学概論」以外の科目は、保健師課程選択者のみ履修可能。							1学年の学期区分		2学期							
							1学期の授業期間		15週							
							1時限の授業時間		90分							

教育課程等の概要															
(看護学部看護学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養に関する科目	人文社会・教育科学	スタートアップセミナー	1前	2			○			3			1		オムニバス・共同（一部） ※演習
		社会学	1前	1			○								兼1
		人間関係論	1前	1			○			1	1				オムニバス・共同（一部）
		医療倫理	1前	1				○							兼1 ※講義
		文化人類学	1後	1			○								兼1
		音楽と健康	1前		1		○								兼1 ※演習
		心理学	1後		1		○								兼1
		教育学	1後		1		○								兼1
	自然科学	環境と健康	1前	1			○								兼1
		食物と健康	1後	1			○								兼2 オムニバス
		薬と健康	1後	1			○								兼3 オムニバス・共同（一部）
		情報リテラシー基礎	1前	2			○								兼2 オムニバス ※演習
		情報リテラシー応用	1後	2				○							兼5 オムニバス・共同※ 講義
	体育	スポーツ	1前		1				○						兼2 共同
	外国語	英語 I	1前	2			○								兼1 ※演習
		英語 II	1後	1			○								兼1 ※演習
		中国語	1通		2		○								兼1 ※演習
		ロシア語	1通		2		○								兼1 ※演習
		ロシア語	1通		2		○								兼2 共同 ※演習
		ドイツ語	1通		2		○								兼1 ※演習
小計（20科目）		—	16	12	0	—			4	1	0	1	0	兼27	—
専門教育に関する授業科目（専門基礎科目）	人間と健康	人体の構造と機能 I	1前	2			○								兼1
		人体の構造と機能 II	1前	2			○								兼1
		人体の構造と機能 III	1後	1			○								兼1
		疾病の原因と成り立ち	1後	2			○								兼1
		疾病の予防と治療 I	1後	2			○								兼1
		薬理学と薬剤管理	1後	2			○								兼2 オムニバス・共同（一部）
	健康と社会環境	医療と看護の歴史	1前	1			○			2					オムニバス
		家族看護学	1後	1			○			1					
		公衆衛生学	1後	2			○								兼1
		臨床心理学	1後	1			○								兼1
		ケアの基本理念	1後		1		○			1					※演習
		在宅医療	1後		1		○								兼1
小計（12科目）		—	16	2	0	—			4	0	0	0	0	兼9	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育に関する授業科目 (専門教育科目)	基礎看護学 看護学原論	1前	2			○			1						※演習 共同 オムニバス ※演習
	看護の基本技術	1後	1			○			1						
	援助的人間関係論	1後	1			○			1						
	基礎看護学実習 I	1前	1					○	10	4	2	8	5		
	地域・在宅看護概論	1後	2			○			1						
	地域・在宅看護論	1後	2			○			5	1					
小計(6科目)		—	9	0	0	—	—	—	10	4	2	8	5	0	—
合計(38科目)		—	41	14	0	—	—	—	10	4	2	8	5	兼35	—
学位又は称号	学士(看護学)	学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係)										
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
<p>「教養に関する科目」から必修科目17単位+外国語選択科目2単位以上+その他の選択科目3単位以上、「専門教育に関する授業科目(専門基礎科目)」から必修26単位+選択4単位以上、「専門教育に関する授業科目(専門教育科目)」から必修74単位+選択2単位以上の計128単位以上を修得することとする。</p> <p>保健師国家試験受験資格取得のためには、「公衆衛生看護学領域」の全科目及び「保健医療福祉行政論」「保健統計学」を履修し、卒業要件単位と合わせて141単位以上を修得することとする。 (履修科目の登録の上限:48単位(年間))</p> <p>※「公衆衛生看護学領域」の「公衆衛生看護学概論」以外の科目は、保健師課程選択者のみ履修可能。</p>						1学年の学期区分			2学期						
						1学期の授業期間			15週						
						1時限の授業時間			90分						

教育課程等の概要																	
(看護学部看護学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
社人 会文 自然 科学 体育 外国 語	日本国憲法	4前		2		○									兼1		
	歯と健康	4前		1		○									兼1 ※演習		
	漢方とサプリメント	4前		1		○									兼1		
	健康とスポーツ	4前		1				○							兼1 ※講義		
	英語Ⅲ	3前	1				○		1								
	小計（5科目）	—	1	5	0	—			1	0	0	0	0	0	兼4	—	
	疾病の予防と治療Ⅱ	2前	2			○									兼4	オムニバス	
	疾病の予防と治療Ⅲ	2前	1			○									兼1		
	感染症と微生物	2前	1			○									兼1		
	栄養学	2前	1			○									兼1		
	人間工学	2前	1			○									兼1		
	社会保障と法	2前	1			○									兼1		
	多職種連携	2後	1			○			5							オムニバス	
	疫学	3前	2			○									兼2		
	保健医療福祉行政論	3前		2		○									兼1		
	保健統計学	3前		2		○			1								
	ボランティア論	4前		1		○			1								
	小計（11科目）	—	10	5	0	—			7	0	0	0	0	0	兼12	—	
	看護倫理学	2前	1			○			1								
	生活支援技術論	2前	2			○				1							
	治療過程支援技術論	2前	1			○				1							
	ヘルスアセスメント演習	2前	1				○		1	1		1	3			共同 ※講義	
	看護過程展開技術演習	2後	1				○		1	1		1	3			共同 ※講義	
	生活支援技術演習	2通	2				○		1	1		1	3			共同 ※講義	
	治療過程支援技術演習	2後	1				○		1	1		1	3			共同 ※講義	
	基礎看護学実習Ⅱ	2後	2					○	10	4	2	8	5				共同
	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	2後		2		○			1							※演習
		公衆衛生看護活動論Ⅰ※	3前		2		○				1						※演習
		公衆衛生看護活動論Ⅱ※	3前		2			○		1	1						オムニバス・共同（一部） ※講義
		公衆衛生看護管理論※	3前		2		○			1							※演習
		公衆衛生看護政策論※	4前		1		○			1	1						オムニバス ※演習
		公衆衛生看護学演習※	4前		1			○		1	1						オムニバス・共同（一部）
		公衆衛生看護学実習Ⅰ※	4前		2			○		1	1						共同
公衆衛生看護学実習Ⅱ※		4前		3			○		1	1						共同	
	地域・在宅看護関係法規	2前	1			○			2							オムニバス	
	地域・在宅看護技術演習	2前	2				○		5	1	1		2			オムニバス・共同（一部）	
	在宅看護論実習	2後	2				○		10	2	1	7	5	兼4	共同		
	健康生活自己管理支援実習	3後～4前	2				○		5	1	1		3			共同	
	成人看護学概論	2前	1			○			1								

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
成人看護学	健康の慢性的揺らぎのある成人の看護	2前	2			○			1					兼2 オムニバス 共同 ※講義 共同 ※演習 共同 ※演習
	急激な健康破綻をきたした成人の看護	2後	2			○			1					
	成人看護技術演習	3前	1				○		2			2	3	
	健康の慢性的揺らぎのある成人の看護実習	3後～4前	2					○	1			3	1	
	急激な健康破綻をきたした成人の看護実習	3後～4前	2					○	1			3	1	
老年看護学	老年看護学概論	2前	1			○			1	1				オムニバス・共同（一部） ※演習 共同 ※講義 共同
	老年の疾病と治療	2前	1			○				1				
	老年看護学実践論	2後	1			○			1	1	1			
	老年看護技術演習	3前	1				○		1	1	1	2		
	老年看護学実習	3後	2					○		1	1	1	1	
小児看護学	小児看護学概論	2前	1			○			1					兼1 オムニバス・共同（一部） 共同 共同
	小児の疾病と治療	2前	1			○								
	小児看護学実践論	2後	1			○			1	1	1			
	小児看護技術演習	3前	1				○		1	1	1	2		
母性看護学	小児看護学実習	3後～4前	2					○	1	1		1		
	母性看護学概論	2前	1			○			1					兼1 オムニバス 共同 ※講義 共同
	女性の疾病と治療	2前	1			○			1					
	母性看護学実践論	2後	1			○			1					
	母性看護技術演習	3前	1				○		1			3	2	
母性看護学実習	3後～4前	2					○	1			3			
精神看護学	精神看護学概論	2前	1			○			1					共同 共同
	精神の疾病と治療	2前	1			○			1					
	精神看護学実践論	2後	1			○			1					
	精神看護技術演習	3前	1				○		2			2		
	精神看護学実習	3後	2					○	2			2		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
看護 統 合 と 課 題 探 究	チーム医療論	3前	1			○			4						オムニバス
	チーム医療実習	4前	2					○	10	4	2	8	5		共同
	看護管理学	3前	2			○			1						
	看護管理学実習	4後	2					○	10	4	2	8	5		共同
	看護研究の基礎	3前	1			○			10	1					オムニバス・共同（一部） ※演習
	看護研究演習Ⅰ	3後	1				○		10	4					共同
	看護研究演習Ⅱ	4通	2				○		10	4					共同
	災害看護学	4前	1			○			1						
	国際看護学	4前	1			○			1						※演習
	看護教育学	4前		1		○			1						
	新たな医療と看護の課題	4前		2		○			6	1					兼1 オムニバス
	新潟の医療と看護の課題	4前		1		○			1			3			オムニバス・共同（一部）
小計（58科目）		—	65	19	0	—			10	4	2	8	5	兼9	—
合計（74科目）		—	76	29	0	—			10	4	2	8	5	兼25	—
学位又は称号	学士（看護学）	学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係）										
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
「教養に関する科目」から必修科目17単位+外国語選択科目2単位以上+その他の選択科目3単位以上、「専門教育に関する授業科目（専門基礎科目）」から必修26単位+選択4単位以上、「専門教育に関する授業科目（専門教育科目）」から必修74単位+選択2単位以上の計128単位以上を修得することとする。 保健師国家試験受験資格取得のためには、「公衆衛生看護学領域」の全科目及び「保健医療福祉行政論」「保健統計学」を履修し、卒業要件単位と合わせて141単位以上を修得することとする。 （履修科目の登録の上限：48単位（年間）） ※「公衆衛生看護学領域」の「公衆衛生看護学概論」以外の科目は、保健師課程選択者のみ履修可能。						1 学年の学期区分			2 学期						
						1 学期の授業期間			1 5 週						
						1 時限の授業時間			9 0 分						

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	スタートアップセミナー	<p>この授業は、医療人として学ぶための心構えを身につけること、大学での学習に必要な技能を身につけること、自分の看護職としてのキャリアデザインを描く心構えができることを目的とする。医療人としての心構えとしては特に、看護という専門性の高い領域において、チーム医療を担う人材に求められる礼儀、他者とのコミュニケーション技術を理解し、将来のビジョンを描くことができるようにする。大学で学ぶための技能としては、様々な場で求められる思考・判断・レポート作成の基本について効果的な学習方法を修得する。単に知識の修得にとどまらず、自らの目標を設定し、能動的に学修を行い、自己点検を行い、今後の専門的知識修得の必要性と社会における関わりを学ぶ。また、薬科大学の建学の精神を踏まえた各学部の特徴、目標、卒業までの4年間の目標設定等に役立てる等、学修意欲を喚起する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (① 定方美恵子/6回)</p> <p>医療人としての学習方法と心構え 薬科大学の建学の精神 スタディスキル(2) 図書館の活用 スタディスキル(5) 文章のまとめ方とレポートの書き方 スタディスキル(7) ポートフォリオの作成と活用方法 キャリアデザイン (1) 低学年次から考える学生生活ビジョン キャリアデザイン (2) 看護職としてのキャリアデザイン例</p> <p>(⑥ 篠原百合子/3回)</p> <p>看護学部のカリキュラムについて 学生としてのスキル(1) コミュニケーション、対人関係のスキルスタディスキル(6) ディスカッションスキル、仲間と学ぶ</p> <p>(⑦ 戸田肇/2回)</p> <p>大学で学ぶ方法 大学で何をやるか スタディスキル(1) ノートの取り方</p> <p>(23 諸橋麻紀/2回)</p> <p>スタディスキル(3) パソコンの使用 スタディスキル(4) 情報リテラシーとマナーについて</p> <p>(① 定方美恵子・⑥ 篠原百合子・⑦ 戸田肇・23 諸橋麻紀/2回)(共同)</p> <p>スタディスキル(7) プレゼンテーションスキル スタディスキル(8) プレゼンテーションスキル</p>	<p>オムニバス・共同（一部）</p> <p>講義6 演習4 講義+演習20</p>
	社会学	<p>これまで日常生活を送ってきた「社会」を、社会学的視点から見直してみる。多様化や個人化、流動化が進む現代社会において、どのように他者を理解し、自らを社会の中に位置づけ、社会とつながって生きていくのかを考えることで、社会的存在としての自分や、他者、社会に対する理解を深めるとともに、社会現象を複眼的・批判的にとらえ、かかわっていく態度を養う。</p> <p>到達目標：1. 異なった価値観をもった他者と関係性を築くことの大切さを理解できる（知識理解・協調指導力）。2. 抽象的なコンセプトを具体的な事象で説明できる（発表表現・思考判断・その他：オリジナリティ）。3. 看護師”として地域の方、そして多職種の方と連携して、どのように地域社会を形成していくことについて、考え抜く力を身につけてください（関心意欲）。</p>	

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文社会・ 教育学	人間関係論	<p>人間関係の多様なあり方について理解し、他者との円滑な信頼関係の構築に必要な知識と積極的に取り組む姿勢を養う。集団や組織、あるいは個人的な場における感情的な面を含めた人間と人間の関係について理解し、人間関係を成り立たせるためのコミュニケーションの仕組みと、人間関係を深めたり、崩壊させたりする要素など基礎的理論について学ぶ。また、人間のライフサイクルや発達に伴う関係性の変化とその理論的背景（発達心理学、教育心理学、社会心理学など）に着目し、将来、対人援助の専門的職業に必要とされる人間理解の基盤を形成し、医療人としての人間関係について理解を深め、人間関係を自分の課題として捉えて対処していく考え方を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(⑥ 篠原百合子/6回)</p> <p>医療専門職者とコミュニケーション コミュニケーション技法 感情表現とその技法 悩みの仕組み 自己理解と自己表現 カウンセリングの技法</p> <p>(⑩ 成澤幸子/1回)</p> <p>こころを強くする</p> <p>(⑥ 篠原百合子、⑩ 成澤幸子/1回) (共同)</p> <p>医療専門職者の体験を聞く</p>	オムニバス・共同 (一部)
	医療倫理	<p>医療の倫理的問題を理解し、対話によって解決する能力を修得するために、総論として(1)医療の倫理の歴史、(2)医療の倫理の方法を学び、医療の複雑な倫理的問題を考えるための基礎的知識を身につける。その上で、死と喪失、生と生殖、個人の権利と公共の福祉、医学研究と医療資源の各論的テーマに沿って学修する。いずれの学修内容についてもグループワークまたは個人ワークとしてアクティブ・ラーニングを行う。</p>	講義18 アクティブラーニング12
	文化人類学	<p>人を理解するうえで、人が生きている背景を理解することは重要である。グローバル化が進行する現代社会に生きる我々は異文化との接触を余儀なくされており、他の文化を理解することが迫られている。異文化との接触はまた自らの文化変化を伴わざるを得ない。文化人類学は文化の概念と地球上のさまざまな文化から、人間を人間たらしめる「文化」を明らかにする学問である。民俗文化を内側から明らかにし、現代生活のなかに伝承される文化がいかに表現され、いかなる形で存在し、またどのように推移してきたかを見きわめ、その理由を知ること異なる文化の理解をする。それにより、私たちを取り巻く日常の素朴な疑問から現代の社会問題まで考えるとともに、自分の文化、ひいては自分自身についてもより深い理解につなげる。</p>	
	音楽と健康	<p>音楽の持つ力が人の身体と心および社会性にどのような働きがあるか、音楽療法とは何か、実際のセッションを体験しながら音楽療法の定義、目的、対象、方法について基礎的な知識を理解する。また音楽療法の歴史や日本の現状を踏まえながら、高齢者や児童、成人を対象とした医療・福祉・療育・地域で行われている実際の活動について理解し、病気や障害を持つ人々を援助する方法について学ぶ。医療環境の中で、医療専門職者が対象の支援の目標を達成するための手段として音楽を用いる際に、科学的根拠に基づき活用し、成果を評価できる教養力・実践能力を養うことを目標とする。</p>	講義12 演習4
	心理学	<p>心理学の歴史や基本的な概念、方法論を基本として心の動きの基礎知識を得るとともに自身について考える機会を作る。具体的内容として、知覚・認知の働き、学習、生涯発達、個人と集団などを取り上げる。さらに錯覚などの心理的環境について体感、発達段階の特徴、思考の発達や乳児の能力、生涯発達の視点から自我同一性の確立、心理療法、性格や性格検査、社会との関わりについて理解し、自己認知を深めるとともに、良好な人間関係を築くために心理学的知識に基づく「コミュニケーションスキル」の活用が重要であることを理解する。</p>	

区科分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教育学	<p>教育学の基礎的理論を学ぶ。具体的には人間の発達と教育についての基本的理論、子どもの権利条約の基本原則、教育方法・技術の理論と実際、教育計画の立案などについて学ぶ。更に、今日の子どもをめぐって喫緊の課題となっているトピックを理解し、その問題の検討を通して、対人援助における指導とケアのあり方について考察する。</p> <p>到達目標：1. 人間発達に関する基礎的理論を理解し、教育が果たす役割について説明することができる。2. 子どもの権利条約とその基本的な原理について説明することができる。3. 教育方法の基本的な技術について理解し、それを活用することができる。4. 教育課題について計画の立案から評価までの流れと原則を理解している。5. 教育をめぐる事例の考察を通して、対人援助における指導とケアのあり方について考察できる。6. 教育をめぐる諸問題に関心を持ち、取り上げたトピックについて、自らの意見を持ち、主体的に話し合うことができる。</p>	
	日本国憲法	<p>日本国憲法初学者を対象に、基礎的な学識の修得を目指す。講義では、憲法の意義、日本国憲法の成立に至る歴史的経緯、日本国憲法の理念・基本構造・全体像を解説した後、具体的な憲法訴訟を紹介し、実生活における憲法の意義を議論する。講義後半では、統治のしくみを取り上げる。具体的には、権力分立のあり方を説明したうえで、国会、内閣、裁判所、違憲審査制、財政、地方自治、憲法改正等に関する諸問題を論じる。</p>	
	環境と健康	<p>人類は近代以降、地球の資源を費やすことで大量生産と大量消費を繰り返し、温暖化など地球規模での環境問題が顕在化し、人類の存在基盤そのものが脅かされるようになってきた。環境問題は政治・経済・文化・医療の問題でもある。この科目では、地球規模から地域的な課題まで、環境問題の概要を学び、健康への影響を具体的に学ぶ。</p> <p>到達目標：1. SDGsについてを理解する。2. 地球環境による健康への影響について自分の考えを示すことができる。3. 身体活動量の確保が重要であることを説明できる。4. 食にまつわる環境について自分の考えを示すことができる。5. 日常生活を意識しながら環境について考えることができる。</p>	
	食物と健康	<p>人の健康な生活は適切な食物摂取が不可欠である。それによって得られる栄養素が体内における生化学的反応によって消化・吸収・代謝される基本的メカニズムを理解するとともに、栄養の概念、三大栄養素だけでなく非栄養素も含め、健康に役立するための食品の知識から、食事・栄養面の重要性を学ぶ。また、現代社会のグローバル化、科学技術の進歩により多種・多様な食材が身近にあふれている。これら日常の食生活における身近な話題を取り上げ、それに科学的な解説を加えながらこれからの食事の考え方についても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(28 松本均/4回) オリエンテーション 食品中の栄養成分 脂質の栄養 ビタミンの栄養 ミネラルの栄養 授業まとめ</p> <p>(27 佐藤真治/4回) 栄養素の消化吸収機構 栄養素の利用 糖質の栄養 タンパク質の栄養</p>	オムニバス

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目に関する科目 自然科学	薬と健康	<p>高齢社会の進展に伴いその要因、加齢による生理的变化や複数併存疾患の治療のために、多剤服用によるポリファーマシーや残薬問題が生じやすい状況が指摘されている。ここでは主に高齢者が使用する代表的医薬品の剤形、用法・用量の特徴、高齢者の身体的特徴などに触れ、高齢者が適正な服薬行動（療養生活）を継続できるための対応、服薬説明に必要なコミュニケーションと患者心理などについて取り上げる。その上で、ポリファーマシーの概念、多剤服用の現状と原因・誘因、薬剤に直しの基本的考え方を学習し、服用支援とそのため多職種連携の在り方について討議する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(29 朝倉俊成/6回)</p> <p>薬に親しむ 適正な薬物療法に必要な管理(1) 適正な薬物療法に必要な管理(2) 高齢者における“くすり”に関する問題点(1) 高齢社会における“くすり”に関する問題点(2) ポリファーマシーとその対策(1)</p> <p>(29 朝倉俊成・49 篠原久仁子/1回) (共同)</p> <p>ポリファーマシーとその対策(2)</p> <p>(29 朝倉俊成・50 関明美/1回) (共同)</p> <p>多職種連携</p>	オムニバス・共同 (一部)
	情報リテラシー基礎	<p>医療系分野において、コンピューターが果たす役割はますます大きくなっている。この授業では今後の学習や研究、卒業後の業務などで利用する、パソコンやインターネットを使う上での基本的な知識、セキュリティに対する対応策等について説明し、情報機器を扱う上での基礎とする。また、基本的なソフトウェアを用いて文書作成、実験データ解析や情報収集、プレゼンテーションスライド作成を行うことにより、実用的なPC活用スキルを身につける。</p> <p>到達目標：1. ITの基礎用語を理解できる。2. ソフトウェア、ハードウェアの主な仕組みを理解できる。3. ネットワーク、データベースの概要を理解できる。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(31 高津徳行/9回)</p> <p>授業オリエンテーション (前半) コンピューターの構成(1)～(3) 通信とネットワーク(1)～(4) 情報とセキュリティ(1)～(4)</p> <p>(30 井坂修久/6回)</p> <p>授業オリエンテーション (後半) タイピング、ワープロソフト Word(1)(2) 表計算ソフトExcel(1)(2) プレゼンテーション作成ソフトPowerPoint(1)(2)</p>	オムニバス 講義18 講義+演習12
	情報リテラシー応用	<p>デジタル社会の「読み・書き・そろばん」である「数理・データサイエンス・AI」の基礎知識とデータ解析の基本的な技能を習得する。「数理・データサイエンス・AI」とは何かを想起し、実社会における数理・データサイエンス・AIがどのように利用されているかを理解した上で、具体的にデータ収集とデータ処理が出来る能力を身につけると同時に、社会における数値データを適切に解釈できるスキルを身につけることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(35 富永佳子/1回)</p> <p>データサイエンスとは何か、社会で起きている変化社会で活用されているデータの役割について学ぶ</p> <p>(33 伊藤美千代/6回)</p> <p>データ分析(1)～(6)</p> <p>(35 富永佳子・32 浅田真一・36 星名賢之助・33 伊藤美千代・34 島倉宏典/5回)</p> <p>AI (人工知能) とは AIの基礎(1)～(4)</p> <p>(34 島倉宏典・33 伊藤美千代/3回)</p> <p>AIの基礎 (5) AIの最新動向と未来(1)(2)</p>	オムニバス・共同 講義8 講義+演習12 講義+GW10

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	歯と健康	乳幼児期から高齢期および終末期までのライフステージごとの歯と健康の関わりについて保健・医療・福祉の様々な視点から理解し、養護教諭や保健師など様々な分野で活躍する人材が必要とする知識を修得し看護実践能力を向上させる。 到達目標：1. 口腔と歯の構造と機能について理解できる。2. ライフステージ毎の歯と健康において乳幼児期・学童期の対応を説明できる。3. ライフステージ毎の歯と健康において成人期・高齢期の対応を説明できる。4. 口腔ケアの役割を説明できる。5. 歯と健康に関する急性症状の対応について説明できる。6. 看護学における研究の必要性について理解できる。	講義8 演習4 講義+PBL4
	漢方とサプリメント	漢方による治療は伝統医学のひとつであり、その歴史と考え方、西洋医学、ハーブ、サプリメントとの違い、有効活用、およびこれらの伝承医薬・薬物を「代替医療」としての必要性を修得する。サプリメントはビタミンやミネラルなどの健康増進に役立つ成分を濃縮し錠剤・カプセル状にしたものであるが、法的定義はなく健康食品にされている。サプリメントの種類、利用状況及び正しい利用方法、その有用性と健康被害などを理解する。	
	スポーツ	バドミントン、卓球の実技を通して、身体活動（運動やスポーツ）の意義を理解する。自己の身体状況を十分把握しながら適切な身体活動を行い、総合的な生活体力の向上と健康の保持、増進に努める。そして、学生時代はもちろん、生涯にわたり、安全で充実した健康生活を積極的に営むために、身体活動の習慣化を実践することができるようになること、また、学生同士で対戦方法を話しあったり、ゲーム毎に対戦相手をかえるなどにより、授業を通してコミュニケーション能力を高めることを目指す。	共同
体育学	健康とスポーツ	健康科学に関する基礎的な知識を理解するとともに、看護職に必要とされる体力を養えるようになるために、適切な運動方法を身につける。 具体的方法として、バドミントンの基本訓練、ゲームとその運営、評価についての実践的な学習、トレーニングの原則、及び身体トレーニングとして筋力、持久力、柔軟性等について理論と実際を学び、看護師に必要な体力を維持・増進するための知識と技術を身につける。	実技18 講義8
	英語 I	看護の実践に必要な英語力を涵養するために、医療と看護に関わる内容の英語教材を使用して、英語のリーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4技能を総合的に伸長する。 到達目標：1. 医療と看護分野の基本的な英語の語彙や表現を理解できる。2. 平明な英語の文章を読んで正確に理解できる。3. 平明な英語の会話やアナウンスを聴いて正確に理解できる。4. 英語音声の特徴に留意しながら英文を音読できる。5. 自然な英語の文章を書くことができる。	講義+演習30
	英語 II	看護の実践に必要な英語力を涵養するために、医療と看護に関わる内容の英語教材を使用して、英語のリーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4技能を総合的に伸長する。 到達目標：1. 医療と看護分野の基本的な英語の語彙や表現を理解できる。2. 平明な英語の文章を読んで正確に理解できる。3. 平明な英語の会話やアナウンスを聴いて正確に理解できる。4. 英語音声の特徴に留意しながら英文を音読できる。5. 自然な英語の文章を書くことができる。	講義+演習16
	英語 III	看護をさらに追究していく上で海外の英文文献を読むことができる基礎的能力は重要である。そのために、医療、特に看護に関する国際コミュニケーション能力の向上のために、医療英語を学び、英語論文が理解できる読解力を習得するために必要な精読力を身に付けさせ、読解力とともに、国際看護の基礎となり得る英語能力を身に付けさせる。到達目標：1. 医療英語の基礎的用語が理解できる。2. 医療現場で遭遇する英語の専門用語を理解できる。3. 医療現場で必要とされる英会話や情報提供の方法を理解できる。4. 英語論文を読み、内容を理解できる。5. 国際活動に必要な医療英語の基礎を身につけ、異文化看護に関心をもつことができる。	

区科分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語	中国語	現代社会では、国際社会で活躍できる人材が求められている。また、地理的に非常に近い中国は経済的にも文化的・歴史的にも日本と密接な関わりを持っている。そのため、この科目では「中国語」を修得する。 到達目標：中国語の正しい発音と文法の基礎を身に付け、簡単な日常会話ができるようになることを目標とする。 授業内容：発音の基礎、文法の基礎、授業オリエンテーション、発音・文法の確認、文法の基礎と応用会話	講義+演習24 講義+演習+GW22
	ロシア語	グローバルな世界で活躍するためには、コミュニケーションの基本となる外国語の習得が必須条件となる。外国語の中でも日本と文化・歴史・地理・経済的に密接なかかわりを持っている韓国の言葉は、日本語と同じ語順であり、共通している部分が多いため日本人にとって比較的学びやすい外国語である。この科目では前期に韓国の文字である「ハングル」を重点的に学修し、韓国語の自然な発音と読み方や書き方などを学び、後期に韓国語の基礎文法・表現を学ぶ。同時に韓国の文化、日本とも関係なども紹介し、異文化への理解と関心を高める。	講義+演習44 課題2
	ロシア語	ロシア語の基礎を初歩から学びます。語学を学ぶとともにロシア文学や音楽、ロシアの生活などにも触る。 到達目標：1. ロシア語の読み書きの習得。基本的挨拶ができるようになる。2. 「話す」、「聞く」能力を身につける。 授業内容：アルファベット、母音と子音、単語とアクセント、アクセントとイントネーション、子音の有声・無声化、硬母音、名詞の性と数、所有代名詞、人称代名詞と動詞の第1変化、動詞の第2変化、名詞の複数形、形容詞と疑問詞、名詞の前置格及び助同詞の変化、名詞の対格、動詞の過去形、名詞の造格、名詞の生格、基本的な挨拶、代表的な文学作品に触れる、簡単なロシア語のアニメーションを視聴、ロシア語で自己紹介ができる、簡単な天気の話ができる、日本や新潟についてロシア語で説明ができる、これまでの会話表現の演習のまとめ、定期テストにむけて総復習。	共同 講義+演習46
	ドイツ語	ドイツ語の構造や成り立ちを理解する。ドイツ語学習やドイツの映像を通じて欧州の歴史や精神の在り方に触れ、ドイツの文化的背景に親しむ。ドイツ語構造の理解の上に語彙や文型を増強し、辞書を使いながらもドイツ語の読み書きにと陸組めるようになる。地井津語の修得や運用を通じて、ドイツの文化習慣に親しむ。 到達目標：1. 講義・演習・会話活動を積み上げ、基本的な語彙や文系を習得し、平易なドイツ語の読み書きの力、簡単なコミュニケーションスキルを身につける。2. 独検5～4級レベルを目指す。3. 基本的な文法事項を学習し、平易なドイツ語の読み書きや場面に応じた簡単な会話ができるようになる。4. 独検4級合格レベルを目指す。	講義+演習4 講義+演習+GW36 映像鑑賞6
	人体の構造と機能 I	人体はいくつかの器官系で構成されており、それらの器官系が協調して個体レベルでの恒常性機能の調節を行っている。この授業では人体を構成する各器官系の構造と機能および生体の恒常性維持機構について学び、疾患の成り立ちや診断・治療の理解に必要な基礎知識を修得する。 到達目標：1. ヒトの身体を構成する主な臓器の名称と体内での位置。2. 組織、器官を構成する代表的な細胞の種類・特徴。3. 神経細胞の構造と興奮・伝導。4. 神経系の構成と機能。各感覚器の構造と機能。5. 骨、関節の構造と機能各筋組織の構造と筋収縮のしくみ。6. 循環器の構造と体液循環。血液の成分と機能。7. 膚の構造と機能。8. 免疫。呼吸器の構造とガス交換消化器の構造と栄養素の消化・吸収泌尿器の構造と尿の生成。9. ホルモンの基本的性質と機能。10. 主な内分泌器官の構造と機能主な恒常性調節機構（血糖値調節、体液調節、血圧調節、体温調節、カルシウム代謝調節生殖器の構造と機能および生殖のしくみ。など全18項目について説明できる。	

区科分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間と健康	人体の構造と機能Ⅱ	<p>身体の支持と運動、情報の受容と処理、血液の循環とその調節、成長と老化について深く掘り下げて、人体の構造と機能を頭頸部、体幹、上肢、下肢、骨盤などの部位に合わせて局所的に学び、成長と老化についても学修する。</p> <p>到達目標：1. 身体の支持と運動、情報の受容と処理、血液の循環とその調節、成長と老化。2. 頭頸部、体幹、上肢、下肢、骨盤などの部位に合わせて、骨と筋肉の構造と機能。3. 脳、脊髄から分布する脳神経と脊髄神経、自律神経について、頭頸部、体幹、上肢、下肢、骨盤などの局所的分布と役割。4. 心臓、胎児の血液循環、動脈と静脈、リンパ管の頭頸部、体幹、上肢、下肢、骨盤などの局所的分布と役割。5. 成長と老化。6. 今後、臨床医学を学ぶ際に、病的状態、及び看護学を学ぶ際の生活活動状態と対比し、健康生活・疾病・障害に関する観察力、判断力の基礎能力を身につける。</p>	
	人体の構造と機能Ⅲ	<p>人体骨格模型を用いて、立ち上がり、歩く、物を握る、持ち上げる、息をする、食べる、聞く、話す等の人体の基本動作に関連する骨や関節、それを動かすための筋肉の運動方向、その筋肉に分布する神経と血液供給について、討論し、レポートを作成する。更に、呼吸、嚥下、話を効く、話すなどの基本動作を行う際の、呼吸筋や咽頭筋などの筋肉や、舌、口蓋、咽頭、喉頭などの運動に合わせて、筋肉の運動方向、その筋肉に分布する神経と血液供給について、討論し、レポートを作成する。</p>	
	疾病の原因と成り立ち	<p>疾病の発症するメカニズムから疾病の臨床病態を理解する。病理的变化として細胞の障害と修復、生物感染・免疫・遺伝子異常・加齢と疾患成立との関係、腫瘍、循環障害、代謝障害について病変臓器の肉眼的・顕微鏡的な変化と生理学的・生化学的な異常を学ぶ。</p> <p>到達目標：1. 病理学、病態生理学の基礎的知識から、健康障害を引き起こすメカニズムを理解する。2. 人体の生理機能の破綻を病因・病変の特徴から疾病の病態生理を理解する。3. 医療技術の開発による再生医療を理解する。</p>	
	疾病の予防と治療Ⅰ	<p>系統別疾患に共通する代表的な症状・徴候、検査・診断・治療を学修する。この科目では呼吸、循環、血液・造血器、内分泌の疾患、排泄機能障害に関して対象の病態理解の基盤となる知識を修得する</p> <p>到達目標：1. 呼吸器系疾患の症状と病態生理、検査・治療を理解する。2. 循環器系疾患の症状と病態生理、検査・治療を理解する。3. 血液・造血器系疾患の症状と病態生理、検査・治療を理解する。4. 内分泌系疾患の症状と病態生理、検査・治療を理解する。5. 排泄機能障害の症状と病態生理、検査・治療を理解する。</p>	
	疾病の予防と治療Ⅱ	<p>系統別疾患に共通する代表的な症状・徴候、検査・診断・治療を学修する。この科目では消化器、代謝・栄養の疾患、骨格、脳血管・神経の疾患に関して対象の病態理解の基盤となる知識を修得する</p> <p>到達目標：1. 脳神経系疾患の症状と病態生理、その早期発見、検査・治療を理解する。2. 運動器系疾患の症状と病態生理、予防と早期発見、検査・治療を理解する。3. 消化器系疾患の症状と病態生理、予防と早期発見、検査・治療を理解する。</p> <p>(オムニバス方式/15回)</p> <p>(62 福多真史/2回) 疾患の理解(2) 疾患の理解(3)</p> <p>(61 高橋哲哉/3回) 脳神経系疾患の症状と病態生理 検査・診断と治療 疾患の理解(1)</p> <p>(63 藤沢純一/5回) 運動器系疾患の症状と病態生理 検査・診断と治療 疾患の理解(1)～(3)</p> <p>(60 小山諭/5回) 消化器系疾患の症状と病態生理 検査・診断と治療 疾患の理解(1)(2) 代謝疾患の症状と病態生理及び疾患の理解</p>	オムニバス

区科分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	疾病の予防と治療Ⅲ	<p>系統別疾患に共通する代表的な症状・徴候、検査・診断・治療を学修する。この科目では感覚器の疾患に関して対象の病態理解の基盤となる知識を修得する。</p> <p>到達目標：1.耳鼻咽喉疾患の症状と病態生理、検査・治療を理解する。2.眼疾患の症状と病態生理、検査・治療を理解する。3.皮膚疾患の症状と病態生理、検査・治療を理解する。</p> <p>授業内容：症状とその病態生理、検査と治療、疾患の理解、耳疾患、鼻疾患、口腔・咽喉頭疾患、気道・食道・頸部疾患と音声・言語障害、機能的障害、部位別の障害（眼瞼、結膜、涙器、角膜、網膜・硝子体、水晶体）、外傷、全身疾患との関連、表在性皮膚疾患、真皮・皮下脂肪織および皮膚付属器の疾患、脈管系の異常による皮膚疾患、物理・化学的皮膚異常、腫瘍及び色素異常症、感染症、全身性疾患に伴う皮膚病変等</p>	
	薬理学と薬剤管理	<p>医療において薬物治療が占める割合は高い。医療者が薬物と関わる機会は多く、医薬品の作用や副作用、薬物動態に関する知識を備える必要がある。この科目では、薬理学の概念、薬物の動態、薬物の作用点・作用機序・相互作用などの基礎知識とそれに基づいた薬剤の適正管理の知識を修得する。</p> <p>到達目標：1.薬物の体内動態と薬効発現の関わり。2.薬物の選択、用法、用量の変更が必要となる要因。3.薬理作用に由来する代表的な薬物相互作用、その機序。4.薬物の主作用と副作用。医薬品管理の意義と必要性。5.劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚せい剤原料等の管理と取り扱い。6.特定生物由来製品の管理と取り扱い。7.特にリスクの高い代表的な医薬品の特徴と注意点。8.医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務。9.代表的な薬害の例、その原因と社会的背景及びその後の対応。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(41 坂爪重明/12回)</p> <p>「薬理学と薬剤管理」概論 認知症治療薬 パーキンソン治療薬 高血圧治療薬 脳梗塞治療薬 抗不整脈薬・心不全治療薬 喘息治療薬 骨粗鬆治療薬 緑内障治療薬 糖尿病治療薬 抗リウマチ薬 薬剤管理</p> <p>(41 坂爪重明、64 関川敬/3回) (共同)</p> <p>睡眠薬・抗不安薬・抗うつ薬 感染症治療薬 がん治療薬</p>	オムニバス・共同（一部）
	感染症と微生物	<p>微生物学の基礎を学び、感染を防ぐ生体の反応である免疫や感染症について、炎症の分類、炎症性変化、感染症の成り立ちおよび生体防御などを学ぶ。また、疫学的観点から、病因と微生物感染症について基礎的な知識を学ぶ。さらに、感染予防や制御の意義と方法を理解し、ウイルス感染症、細菌感染症、真菌感染症、病院感染対策等の取り組みの理解と、地域の危機管理に対する多職種との連携を学ぶ。</p>	
	栄養学	<p>人間の健康における栄養の摂取の意義と機能を内部環境や代謝の機能を基盤として学修し、さらに、人間のライフステージの各段階における食事摂取基準と栄養状態の判定方法や、健康障害と食事療法の実践を学び、栄養管理に必要な知識を学ぶ。</p> <p>到達目標：1.人間にとっての栄養の概念、栄養素と健康の関わりを理解する。2.健康を維持増進のための食生活を理解する。3.健康障害時における栄養・食事管理を理解する。</p>	

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育に関する科目（専門基礎科目）	医療と看護の歴史	<p>医療の始まりから現代医療・医学とその発展に至る歴史を学び、人々や医療が「健康と病気、人が生きることや死ぬこと」に対してどう関わってきたのか理解することをねらいとする。そのために総論として、古代から今日までの医学史・医療史を、各時代の出来事や人物に焦点を当て学修する。各論として、伝染病との闘い、精神医療の歴史、看護の歴史、助産の歴史などのテーマを設定し、それぞれの歴史を学修する。医療、看護の職業および学問としての確立・発展までの歴史を学ぶとともに、今後の医療・看護の在り方、看護学の方向性について考える機会とする。</p> <p>（オムニバス方式/全8回）</p> <p>① 定方美恵子/4回） オリエンテーション医療とは何か健康とは何だろうか 医療がたどってきた道と未来への展望(1)～(3) ⑦ 戸田肇/4回） 古代から中世までの医療の歴史(1)(2) 看護の歴史 医療システムの現状を理解しこれからの医療・看護を考える</p>	オムニバス
	家族看護学	<p>家族看護は比較的新しい視点であり、家族と患者・対象者をひとまとめにして捉える視点が必要である。また、患者・対象者と家族の間に生じる作用が円環理論に基づいて説明できることを前提に考えることができる。カルガリー看護モデルなど家族看護学の基本的理論を複数紹介し、家族援助のために必要な視点、家族アセスメント能力を身につけられるよう講義する。また、病棟における家族看護、地域における家族看護、在宅看護の場での家族看護を比較し、在宅の看取りまでの家族看護の視点を理解できるよう講義する。</p>	
	公衆衛生学	<p>公衆衛生学は、現実の社会で起こっているさまざまな健康問題を、個人を取り巻く環境・社会との関連から解明する学問である。環境と健康との関連、ライフステージに応じた健康課題と保健活動について学ぶと同時に、わが国における公衆衛生活動の歴史とその成果を振り返り、社会の変容に伴う公衆衛生活動のあり方について学修する。</p> <p>到達目標：1. 公衆衛生学の基本が理解でき、説明できる。2. 社会保障と健康問題について理解でき、説明できる。3. 国際保健活動について説明することができる。4. 保健統計の基礎について説明できる。</p> <p>5. 環境問題について理解でき、説明できる。6. 産業保健について説明できる。7. 学校保健について説明できる。8. 地域医療、地域保健について説明できる。9. ライフステージに応じた保健活動について説明できる。10. 社会の変容・医療政策と公衆衛生の関係について</p>	
	臨床心理学	<p>日常的な患者との関りが求められ、チーム医療の一員としても重要な役割を果たす現代の看護師にとって、人のこころいへライフサイクル、人格理論など臨床心理学の基礎知識を学習するとともに、現場実践における人間関係の在り方についても考える。</p> <p>到達目標：1. 臨床心理学に関する基本的な知識を学習し理解を深める。2. 習得したことがらを現場実践にどのように応用し活かして行くことができるのか自ら考えることができる。3. 自分自身との付き合い方や人間関係について関心を併日常に活かすヒントを得る。</p>	
	人間工学	<p>人間工学は、人間が安全・快適で豊かな生活を実現できるように、人とそれに関わるものとのよりよい関係を求めるための学際的な学問である。本講義では、人間の解剖生理学的特徴をまとめながら、人間工学の基本的な手法、ボディメカニクス、生活・仕事への応用について学ぶ。さらに人間工学を看護技術へ応用する方法についても述べる。</p> <p>到達目標：1. 人間工学の理解に必要な人体の構造と機能が説明できる。2. 人間工学の定義を理解し説明できる。3. 人間の諸特性と姿勢・動作について説明できる。4. 人間機械系について説明できる。5. 生活の中の人間工学を意識し、その特徴を説明できる。6. 看護における人間工学の意義を理解し、その有用性を説明できる。7. 人間工学の理解に必要な物理や数学の知識が活用できる。</p>	

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
健康と 社会環境	社会保障と法	<p>人々が健康な暮らしと生活をするためには医療のみならず、社会福祉政策も大きく影響する。医療者は健康及び障害の状況に応じ、社会資源を活用等の支援も不可欠である。この科目では法に基づく社会保障制度の全体像を把握するとともに、医療と社会福祉の連携について学ぶ。</p> <p>到達目標：1.ヘルスプロモーションの目標であるHealth for All、および日本国憲法第24条に基づく社会保障や公衆衛生行政の役割を理解できる。2.医療保健福祉に関する法制度や施策の歴史の変遷と社会情勢との関連について理解できる。3.社会保険、社会福祉、公的扶助、公衆衛生および医療の社会保障制度の概要と看護職として対象への社会資源の活用支援の方法について理解できる。4.多職種連携、協働の必要性と看護職が法制度の中でどのように業務連携・分担をしていくかについて理解できる。</p>	
	多職種連携	<p>多職種連携の背景やその概念、それを形成する保健医療福祉に携わる様々な職種について理解するとともに、組織論や医療社会学の基礎知識の学修を通して、多職種連携のあり方を学ぶ。また、その実践における課題について理解を深め、他職種との協働を促進する要素、阻害する要素について討議しながら、医療チームや地域包括ケアのメンバーとして、ケアチームの一員としての行動の理解や、チームビルディングの考え方を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(⑤ 小山歌子/1回) オリエンテーション 多職種連携とは何か 多職種連携の歴史 多職種連携の今後の課題とまとめ (⑦ 戸田肇/2回) 多職種連携の歴史 多職種連携の今後の課題とまとめ (⑧ 平山恵美子/2回) 地域包括ケアにおける地域づくり 地域づくりの実践例 (④ 古地順子/2回) 医療事例から学ぶ多職種連携1 医療事例のグループワークの発表 (① 定方美恵子/1回) 医療事例から学ぶ多職種連携2</p>	オムニバス
	疫学	<p>人間集団の中で起こる健康に関する現象の頻度や分布を把握し、疾病予防と健康増進に関する疫学の基本的な知識、考え方について学ぶ。</p> <p>到達目標：1.疫学概念とその必要性を理解する。2.疫学的方法論を学び、疫学指標や科学的根拠を活かす意義を理解する。3.疫学が疾病予防や健康増進活動にどのように寄与しているかを理解する。4.集団の健康状態について疫学的データを用いて分析し、解釈できる。5.公衆衛生看護活動や医療を疫学的視点から評価することができる。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(71 中村和利/7回) 疫学序論(1) 因果関係の判定・バイアス・交絡要因 介入研究・臨床疫学とEBN (Evidence-based Nursing) 疫学研究の実際 スクリーニングテスト 遺伝と環境の相互作用・社会疫学 まとめ (70 北村香織/8回) 病気の予防と病因論の基本概念 疫学指標とその標準化 疫学研究のデザイン・記述疫学研究 分析疫学研究・コホート研究・症例-対照研究 疾病登録 主な疾患の疫学 疫学演習(1)(2)</p>	オムニバス 講義26 演習4
	ケアの基本理念	<p>ケアに替えて、ケアが重視されるようになった。ケアとは何か。また、医療や福祉の様々な職種はどう連携しながら患者中心のケアを達成するのか。ケアの理念と多職種連携の実際と課題を学ぶ。</p> <p>到達目標：1.ケア理念の歴史について概観し、ケア学の必要性について説明できる。2.ケアの医療モデルについて病をとらえる基本的な枠組みを説明できる。3.高齢社会におけるケアの生活モデルについて新たな方向性を説明できる。4.ターミナルケア、スピリチュアルケアについて説明できる。5.ケアにおける医療と福祉と経済の関係について説明できる。6.メイヤロフの論じるケアの本質について説明できる。7.看護におけるケアリングについて説明できる。</p>	講義14 講義+演習2

区科分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	在宅医療	入院医療、外来医療に引き続く第三の医療としての在宅医療のあらたな意味、その成り立ちと概要を理解する。在宅医療は、医師、歯科医師、薬剤師、看護師、理学療法士、作業療法士、歯科衛生士、介護支援専門員、介護福祉士、栄養士、管理栄養士など在宅ケアに携わる多職種協働であり、在宅ケアと同義語とされる。その目標は自立と尊厳の維持向上であり、QOLを支援することにあることを理解する。	
	保健医療福祉行政論	法律や制度は、人々が年月をかけて創りあげてきた、よりよい社会を形成するための社会の仕組みである。さまざまな領域で働く保健師の役割として、直接的な保健指導や対象集団への組織的活動に加えて、健康に関する政策や施策を企画立案し、関係機関や関係者との連携・調整が求められている。本科目では、保健医療福祉行政と財政の理念としくみや、地方公共団体の保健医療福祉行政施策の計画策定、実行、評価のサイクルについて、さらに公衆衛生行政の各分野における保健師の役割、地域での活動方法について学修する。	
	保健統計学	公衆衛生看護の基盤となる統計学の基礎を理解し、保健統計調査の解釈ができるように学修する。また推測統計学の基本的な概念を理解し、それを医療や看護の場面で応用できる能力を養う。 到達目標：1. 公衆衛生看護の基盤となる統計学の基礎を理解し、説明できる。2. 保健統計調査の基礎について理解し、説明できる。3. 基本的な統計的計算を手計算できる、または表計算ソフトなどを用いて、実行できる。	
	ボランティア論	世界各地で発生している災害や戦争の中で生じるボランティア活動の必要性から、特に保健医療福祉に関わる医療ボランティア活動の理論・方法論、組織化などの基礎的知識を学び、そのあり方と実際を学ぶ。 到達目標：1. ボランティアの歴史から、理念、性格、活動の意義について説明できる。2. 多様な理論からボランティアの心理について説明できる。3. ボランティアと行政の関係について説明できる。4. ボランティアと情報の関係について説明できる。5. ボランティアの組織化について説明できる。6. 医療ボランティアの理論・方法、現状と課題について説明できる。7. 災害ボランティアの現状と課題について説明できる。8. 国際ボランティアの現状と課題について説明できる。	
	看護学原論	看護はなぜ人間社会に生まれたのかに問いをかけ、看護学への関心が高まるように、身近な体験や看護実践など具体的な事象をもとに、基幹概念である人間・健康・生活・看護について理解する。そして健康の法則に沿って“対象者のもてる力が発揮されるよう生活過程を整える看護”について理解を深め、法的基盤を重ね、看護の専門性と社会的役割、発展の方向性について思い描けるようにする。 到達目標：1. 看護の歴史の変遷を踏まえ、現代社会における看護の位置づけと専門性。2. 看護学に共通する概念や法則の成立過程を辿りながら科学的な思考の基盤を形成する。3. 看護の対象者に人間的な心のもった関心が注げる基盤を形成する。4. 看護の専門性と社会的役割、発展の方向性について自分の考えを述べる。5. グループワークを通して伝える力、聴く力、協働する力、プレゼンテーションする力を身につける。	
	看護の基本技術	科学とは何か、技術とは何かを踏まえ、看護実践において客観的の法則性を意識的に適用する看護技術とは何かを理解する。さらに看護する目的意識を持ち、対象者の安全を保障し、安楽な状態をつくりだし、その人を尊重した自立を支援するために看護技術を修得することの重要性と学修の方向性を培う。 到達目標：1. 人を対象とした看護技術とは何かを述べることができる。2. 看護技術の特徴を看護観との関係において述べる述べる。3. 看護コミュニケーション技術と一般的なコミュニケーションとの共通性と相違性を述べる述べる。4. 対象者の実像に近づくための看護コミュニケーション技術について述べる述べる。5. 看護技術の安全・安楽・自立の意義を述べる述べる。6. 看護技術の立体的な構造を科学的な看護観との関係において述べる述べる。7. 看護技術を修得することの重要性と学習の方向性を述べる述べる。	

区科分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎看護学	援助的人間関係論	人間関係形成過程に関わる諸要素を概説するとともに、人間関係の基盤となるコミュニケーション技術の基礎、および人の誕生から高齢期に至るまでの一生涯の発達を視野に入れて、看護職に必要な自己理解・他者理解を通し、専門職としての援助関係形成のあり方や必要な知識と技術、自己の感情をケアに生かすために効果的なコミュニケーション技術について理解する。 到達目標：1. 人間関係を形成する要素を説明できる。2. コミュニケーションの基本となる構成要素、成立過程、方法を説明できる。3. 援助関係を深めるために必要な技術を説明できる。4. コミュニケーション障害がある人への対応を説明できる。5. 演習を通して自己理解と他者理解の要点を説明できる。6. コンフリクトの仕組みを知り、アサーティブな対応について説明できる。	講義10 演習2 講義+演習4
	看護倫理学	生命・医療倫理の諸問題や看護倫理における倫理的葛藤に対してどのように対処していったらよいのか、生命・医療倫理および看護倫理理論の基本的な知識や概念を活用し、看護職として倫理的な実践を行うための基礎を身につけることを目標とする。具体的には、臨床の複雑な状況下において、看護実践における倫理的葛藤が生じた時、確固たる拠りどころに基づいて説明付けられる能力を養うことを目指す。	
	生活支援技術論	生活環境を整え、対象の持つ自然治癒能力を高めるための技術、身体の清潔にするための技術、食事を摂取し、栄養状態を保つための技術、排泄に関する技術など対象の日常生活行動における不足する部分を補う技術に関して、その技術を支えるための理論的知識を方法論的知識を学修する。また、運動、知覚、循環、呼吸、排泄などの日常生活に必要な様々な機能を維持促進する技術に関して、その技術を支える理論的知識と方法論的知識を学ぶ。	
	治療過程支援技術論	看護職者は、対象者の持つ様々な健康上の問題をより効果的に・解決するために医師の指示のもとで様々な医療行為を実施する。この科目では、治療過程にある対象者に対する看護者の役割をふまえ、対象者に安全・安楽・正確に治療過程を支援するための看護技術について学修する。無菌操作、薬物療法、呼吸療法、検査時の援助、排泄障害の援助などの技術に関して、その技術を支える理論的知識と方法論的知識を学ぶ。	
	ヘルスアセスメント演習	看護の対象となる人々の個性や状況に応じた看護を実践するためには、対象者を生物学的にかつ生活者として把握するヘルスアセスメントが不可欠となる。そこで、看護におけるヘルスアセスメントの概念と意義を理解し、アセスメントするために必要な知識・技術・態度の修得を通して基礎的能力を身につける。 到達目標：1. 看護におけるヘルスアセスメントの概念と意義について説明することができる。2. ヘルスアセスメントの視点、基本的な知識・技術について説明することができる。3. 対象へ関心を寄せ、目的意識をもって観察し、ヘルスアセスメントを実施することができる。4. 対象者から得られた情報の意味を考え説明することができる。5. 学生同士で看護師・患者役となるヘルスアセスメント演習を通して、対象者の立場から援助を考えることができる。6. 事例演習を通して対象者に必要なヘルスアセスメントについて説明することができる。	共同 講義4 演習12 講義+演習14
	看護過程展開技術演習	エビデンスに基づいた看護実践と看護過程について理解した上で、情報の取り方と質、対象の状況を理解し問題を焦点化すること、問題に関する情報収集の方法、情報を分析し臨床的判断をする方法、ケアのエビデンスを見つけ検討する方法、ケアについて評価及びリフレクションの方法を講義及びグループワークを通して学ぶ。 到達目標：1. 看護における看護過程の意義・目的・段階、クリティカルシンキングについて説明できる。2. 看護過程の各段階（アセスメント、看護問題の明確化、計画立案、実施、評価）について説明できる。3. ヘンダーソンの看護論の概要について説明できる。4. ヘンダーソンの看護理論を用いて事例の看護過程を展開できる。	共同 講義4 演習26

区科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	生活支援技術演習	「生活支援技術論」における学修を基盤にして、日常生活を支援するための感染予防、環境の整え、活動と休息、清潔、衣、食事、排泄等の基礎的な技術について学修する。技術演習を通して、理論的知識と方法論知識の統合を図り、看護技術の一つひとつの意味を踏まえて看護技術を修得する。また、看護職者としてふさわしい態度や看護の役割を果たすための姿勢を学ぶ。演習は1ベッドに学生4名を配置、教員1名が2～3ベッドを担当する少人数教育で実施し、グループワークを取り入れた主体的な技術演習を行う。	共同 演習52 講義+演習4 GW4
	治療過程支援技術演習	看護職者は、対象者の持つ様々な健康上の問題をより効果的に解決するために医師の指示のもとで様々な医療行為を実施する。この科目では、治療過程にある対象者に対する看護者の役割をふまえて、対象者に安全・安楽・正確に治療過程を支援するための看護技術について学修する。無菌操作、薬物療法、呼吸療法、検査時の援助、排泄障害の援助などの技術に関して、その技術を支える理論的知識と方法論的知識を学ぶ。	共同 演習20 講義+演習6 PBL4
	基礎看護学実習Ⅰ	看護実践の場とそこで活躍する看護師の看護活動場面を見学し、看護職の看護への考えや行動を知り、今後の学修を具体化するための早期体験学習とする。看護職との関わりから看護への姿勢、看護師間・多職種との調整・連携など、チームメンバーへの関わり方などについても学ぶ。また、病院・病棟・病室の環境やシステムが、療養生活の安全・安楽・自立に向けて、どのように整えられているか学ぶ。 到達目標：1. 看護師との関わりを通して、看護への姿勢やチームメンバーとの関わりについて説明できる。2. 療養環境やシステムが、患者の安全・安楽・自立に対してどのように関連しているか説明できる。3. 看護学生として適切な態度を示すことができる。4. 振り返りを通して、実習の学びと今後の課題を明確に示すことができる。	共同
	基礎看護学実習Ⅱ	初めて受け持ち患者をもち、看護過程を展開する実習である。看護の観点から対象者を統合的に捉え、基本的ニーズを把握し、その人に合った日常生活援助を創造的に工夫して実践し、評価する基礎的な力を養う。これらの体験を通して、看護者としての自己を見つめ、深める力を育成する。また、実習を通し、患者を支援する保健医療チームや看護チームの存在を認識しその役割を理解する。 到達目標：1. 対象者と援助的人間関係を築くことができる。2. 対象者の基本的欲求をアセスメントし、看護問題を明確化できる。3. 対象者の基本的欲求の充足に向けた看護計画を立案できる。4. 対象者の状況に応じた援助を実施できる。5. 対象者に実施した援助を評価できる。6. グループ運営に積極的に参加し、実習の学びを発展させることができる。7. 看護職として適切な態度をとることができる。8. 実習での学びを通して、今後の課題を明確にすることができる。	共同
	公衆衛生看護学概論	公衆衛生看護は、公衆衛生を基盤にした看護活動であり、地域に住むすべての人々を対象とし、健康レベルやQOLの向上を目指し、住民自身が主体的に取り組めるよう支援する。地域を基盤とした公衆衛生看護の対象の捉え方、活動の場、活動方法に焦点をあてながら、多様化する社会現象と健康課題に対応する保健師の役割について学修する。 到達目標：1. 公衆衛生看護学の特徴とプライマリーヘルスケア、ヘルスプロモーションの概念。2. 個人・家族・集団・地域を対象とした看護領域であること。3. 社会的背景と公衆衛生看護学の変遷の関連。4. 地域で生活する人々の健康課題。5. 地域の健康課題と保健計画。6. 公衆衛生看護活動における集団的支援・個別的支援。7. 公衆衛生看護活動における現状の問題を踏まえて今後の課題。以上について説明できる。	講義22 演習8
	公衆衛生看護活動論Ⅰ	さまざまな健康レベル、発達段階にある対象者と課題別の活動展開として、母子保健活動、成人保健活動、高齢者保健活動、精神保健活動、障害者（児）保健活動、難病の保健活動、感染症の保健活動などの実際を学習する。本科目は対象別・課題別に活動の基盤となる法律や制度と関連させながら保健師の役割とその活動内容を具体的に学修する。 到達目標：1. 母子保健福祉システムと看護の展開方法。2. 学校保健システムと看護の展開方法。3. 成人・高齢者保健システムと看護の展開方法。4. 産業保健システムと看護の展開方法。5. 在宅ケアシステム、介護支援システムと看護の展開方法。6. 障害者支援システムと看護の展開方法。7. 難病患者支援システムと看護の展開方法。8. 感染症対策システムと看護の展開方法。以上について説明できる。	講義22 演習8

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
公衆衛生看護学	公衆衛生看護活動論Ⅱ	<p>個人・家族・集団・組織を対象とした支援について学修する。地域の人の行動変容を促すための健康行動理論や保健指導、家庭訪問のプロセスと基礎的技術、個別の健康相談や、住民のヘルスニーズから実施する健康教育、地域におけるグループ支援や組織化に対する活動を学修する。</p> <p>到達目標：1. 公衆衛生看護活動の実践のための基本的な技術と方法について理解し、説明できる。2. 公衆衛生看護の基盤となるさまざまな理論を理解し、説明できる。3. 地域診断の意義と方法について理解し、説明できる。4. 家庭訪問の意義と方法について理解し、説明できる。5. 健康相談の意義と方法について理解し、説明できる。6. グループ支援・地区組織育成支援の意義と方法について理解し、説明できる。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(② 野原真理/1回) 地域診断と地域のヘルスニーズの明確化(5) (⑨ 齋藤智子/10回) 公衆衛生看護の技術 健康教育の技術 家庭訪問の技術 健康相談の技術 演習オリエンテーション 保健指導の理論の活用 健康診査の目的と評価 地域組織活動を支援する 地域ケアシステムの概要 ネットワークの形成とシステムづくり 公衆衛生看護の技術・まとめ (② 野原真理、⑨ 齋藤智子/19回) 地区活動の展開方法の実際 演習オリエンテーション 地域診断と地域のヘルス ニーズの明確化(1)～(4) 演習オリエンテーション、地域診断に基づく健康教育のテーマ設定を行う(1) (2) 健康教育の企画書と指導案の作成(1)～(7) 健康教育の発表(1) (2) 健康教育の評価 家庭訪問の技術 家庭訪問の技術</p>	<p>オムニバス・共同 (一部)</p> <p>講義10 演習26 講義+演習24</p>
	公衆衛生看護管理論	<p>公衆衛生看護管理の「管理」という用語から、管理的立場にある保健師や看護師に求められる能力と思われがちである。しかし、管理は新人にも経験豊富な保健師・看護師にも求められるものであり、看護職が行う活動(ケア)の質を高める活動である。看護の専門性を発揮するために、職務遂行上何らかの責任をもつすべての看護職に必要な管理的機能についての基礎知識を習得し、公衆衛生看護管理の目的や機能、および健康危機管理における法律・制度を学修する。</p>	<p>講義22 講義+演習8</p>
	公衆衛生看護政策論	<p>政策、施策、事業とは何かを理解し、保健師による施策化、事業化の知識を身につけるため、基本(保健)計画の策定、策定のプロセス、基本計画の実際を学び、演習をとおして、健康計画を展開し、事業計画の評価、見直しの技術を学修する。</p> <p>到達目標：1. 地域で生活する人々の健康問題の解決や、地域の健康課題の組織的な解決に関する公衆衛生(地域)看護活動の基礎的な考え方を理解できる。2. 地域環境の変化とあわせ、人々の健康への影響と健康課題への個人及び地域組織の対処行動について理解できる。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(② 野原真理/3回) 政策・施策・事業とは 保健師による施策化・事業化 保健師による施策化・事業化 (② 野原真理、⑨ 齋藤智子/5回) 基本(保健)計画策定の展開(1)～(4) 基本(保健)計画の発表と評価</p>	<p>オムニバス・共同 (一部)</p> <p>講義6 演習6 講義+演習4</p>

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	公衆衛生看護学演習	<p>健康行動論と健康教育論の知識と健康教育の展開に必須であるプレゼンテーション技術を理論的に身につけ、さまざまなツールを用いた健康教育の展開について学修する。公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱにつなげていく。</p> <p>到達目標：1. 保健所実習、市町村保健センター実習、産業保健実習、学校保健実習の実習目標を立案することができる。2. 実習市町村の地域診断を行い、レポートを完成することができる。3. 乳幼児健診や同行家庭訪問において、乳幼児の計測ができる。4. 家庭訪問の一連の過程が実施できる。5. 1歳6か月児健診、3歳児健診における親子に対する問診が実施できる。6. 生活習慣病に対する健康相談が一部実施できる。7. 市町村保健センターで行う健康教育の準備（企画書、指導案、発表原稿の作成、教育媒体の作成、学内で1回はデモンストレーションを実施し、教員の指導を受ける。</p> <p>（オムニバス方式/全15回）</p> <p>（⑨ 齋藤智子/1回）</p> <p>オリエンテーション実習目標の立案（1）</p> <p>（⑨ 齋藤智子、② 野原真理/14回）</p> <p>実習目標の立案（2） 地域診断演習（1）～（3） 健康相談演習 家庭訪問の技術演習 家庭訪問演習（1）（2） 乳幼児健診の問診の演習 健康教育演習（1）～（5）</p>	オムニバス・共同（一部）
	公衆衛生看護学実習Ⅰ	<p>産業保健では労働者の健康相談・指導、作業管理の実際から看護活動の実際を理解し、健全な職業生活を支える労働管理の在り方と看護の役割を学ぶ。また、学校保健では児童・生徒が抱える健康問題を主眼に養護教諭の執務内容や保健室での児童・生徒の精神的、身体的な支援の実際を学ぶ。</p> <p>到達目標：1. 学校の組織構造・機能と健康に関わる組織・機能。2. 学校保健における養護教諭の活動と役割。3. 養護教諭をはじめとする学校保健に関わる学校内外の関係者や組織、機関の役割。4. 学校保健における児童、教職員の健康の保持増進・予防活動。5. 事業場の組織構造・機能と健康に関わる部署・組織とその機能。6. 産業保健における看護職や衛生管理の関係者の活動と役割。7. 当該組織の産業保健チームの位置づけ。8. 活動体制、健康管理に関わる職場内の関係者や組織、機関の役割。等について理解でき説明できる。</p>	共同
	公衆衛生看護学実習Ⅱ	<p>行政機関である保健所・市町村保健センターで実習を行い、保健所保健師・市町村保健師が担う公衆衛生看護活動と その役割について学ぶ。地域保健法に基づく保健所と市町村の機能を理解し、保健医療に係る施策と社会福祉に係る施策との有機的な連携を図る公衆衛生看護活動の実際を学ぶ。実習を通して、地域で生活する人々を尊重し、保健師としての倫理的姿勢を身につける。</p> <p>到達目標：1. 保健所と市町村保健センターの機能。2. 保健所管内や市町村の地域診断に基づき住民の健康問題、具体的な解決策。3. 保健所管内や市町村の各種保健事業や地区活動などの公衆衛生看護活動における計画・実施・評価・改善。地域の保健医療福祉に関する社会資源とその活用方法。4. 住民主体の活動、住民と連携・協働する保健師の活動。5. 公衆衛生看護管理の実際。組織的な管理体制やシステム構築の実際。6. 公衆衛生看護領域における現状。等について説明でき、課題、研究的視点で対策を考えることができる。</p>	共同
	地域・在宅看護概論	<p>在宅看護の変遷やその社会背景をはじめ、在宅看護の目的・基本的な理念 や関連する概念を学ぶ。在宅で療養する対象の特性と支援のあり方、ならび にその支援の基盤となる訪問看護制度を学ぶ。さらに、在宅ケアにおける ケアマネジメントや地域包括ケアシステムの基本、関係機関・職種との連携の必要性、社会資源を学ぶ。在宅で療養や健康支援を必要とする様々な発達段階にある対象に対応する、日常生活援助ならびに医療的援助の展開方法を学ぶ。</p>	

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
地域・在宅看護	地域・在宅看護論	<p>在宅で暮らす様々な発達段階にある対象（小児、母性、成人、老年等）や健康支援が必要とされる状況にある対象（妊婦、精神疾患等）に対して、日常生活援助、ならびに医療的援助を行うための基本的なアセスメントや援助技術の具体的展開方法を学ぶ。在宅看護における紙上事例を展開し、在宅療養者とその家族に対する看護につなげる思考過程と必要な援助方法について学習する。</p> <p>到達目標：1. 対象別に在宅療養者とその家族に対する看護援助の方法を理解できる。2. 在宅療養者とその家族の紙上事例に対する看護過程を展開できる。3. 在宅での生活ニーズの捉え方と生活者の視点でのアセスメントについて説明できる。4. 在宅での看護介入において、生活者の視点に沿った支援の方向性が理解できる。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑤ 小山歌子/5回) オリエンテーション・在宅看護過程の展開(1)～(4) まとめ (④ 古地順子/2回) 成人期在宅療養者の理解 成人期在宅療養者の在宅看護 (⑩ 成澤幸子/2回) 老年期在宅療養者の理解 老年期在宅療養者の在宅看護 (10 中垣紀子/2回) 小児の在宅療養支援(1)(2) (① 定方美恵子/2回) 在宅で暮らす疾患を持つ母性の対象者の看護 在宅で暮らす母性の対象者の看護 (③ 日下修一/2回) 精神疾患を持つ在宅療養者の理解 精神疾患を持つ在宅療養者の看護</p>	オムニバス 講義24 演習6
	地域・在宅関係法規	<p>在宅療養を支える人や機関、活用できるサービスを理解し、社会資源の活用における看護職の役割について学修する。</p> <p>到達目標：1. わが国の社会保障制度と社会資源活用における看護職の役割を理解し、説明できる。2. 医療保健制度の概要と給付の仕組みを理解し、説明できる。3. 後期高齢者医療制度の概要について理解し、説明できる。4. 介護保険制度の目的、要介護認定と介護サービス計画、サービス内容、介護報酬の概要を説明できる。5. 生活保護制度の概要について説明できる。6. 在宅療養者・家族を支える制度について理解し、説明できる。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(⑤ 小山歌子/6回) わが国の社会保障制度の概要 介護保険制度(1)(2) 在宅療養者を支える制度(1)～(3) (② 野原真理/2回) 医療保険制度 社会資源の活用</p>	オムニバス

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
論	地域・在宅看護技術演習	<p>在宅で暮らす様々な発達段階にある対象（小児、母性、成人、老年等）や健康支援が必要とされる状況にある対象（妊婦、精神疾患等）に対して、日常生活援助、ならびに医療的援助を行うための基本的なアセスメントや援助技術の具体的展開方法を学ぶ。また対象と家族、それを取り巻く環境と状況に応じた在宅看護に必要な技術を学ぶ。</p> <p>到達目標：1. 様々な発達段階にある対象別に在宅療養者とその家族に対する看護援助の方法が理解できる。2. 在宅での看護介入において、生活者の視点に沿った支援の方向性が理解できる。3. 在宅での生活ニーズの捉え方と生活者の視点でのアセスメントについて説明できる。4. 在宅看護で必要とされる看護技術が理解できる。</p> <p>（オムニバス・共同方式/全30回）</p> <p>（⑤ 小山歌子、15 明神一浩/10回）（共同） オリエンテーション 在宅看護における看護技術(1)～(8) まとめ(1) (2) （④ 古地順子/4回） 成人期在宅療養者の在宅看護における看護技術(1)～(4) （⑩ 成澤幸子/4回） 老年期在宅療養者の在宅看護における看護技術(1)～(4) （10 中垣紀子/4回） 疾病や障がいを持つ小児の事例検討(1) (2) 疾病や障がいを持つ小児の在宅における看護技術(1) (2) （① 定方美恵子/4回） 母性の在宅療養者の在宅看護技術(1)～(4) （③ 日下修一/2回） 精神疾患を持つ在宅療養者の在宅看護における看護技術(1) (2) （③ 日下修一、15 明神一浩/2回）（共同） 精神疾患を持つ在宅療養者の在宅看護における看護技術(3) (4)</p>	オムニバス・共同（一部）
	在宅看護論実習	<p>在宅を拠点とした人々の暮らしを訪問看護ステーションや小規模多機能施設での生活場面の見学を通し、対象の変化の一連の過程と、それに対応する多職種との連携、家族支援・指導等の現状を知る。また、在宅生活においてQOLを高めるための社会資源、必要なケアシステム等、地域・在宅看護の基盤となるその人らしい生活、QOLの維持・向上のための看護活動と看護職の役割など、今後必要な学修について考えるきっかけとする。</p>	共同
	健康生活自己管理支援実習	<p>地域で生活する人々は、健康な人はもちろん、生涯、慢性疾患とともに暮らしの中で自分で健康管理することが求められており、看護者にその支援が求められている。その場である、疾病の早期発見・予防を支援する健診センターや、慢性疾患の健康・疾病管理を支援する外来看護の場で、その実践を通して人々の健康生活支援のあり方を学ぶ。</p> <p>到達目標：1. 健診センターの役割と疾病予防の早期発見・予防について理解できる。2. 病院外来の役割が理解できる。3. 病院外来に通院する慢性期患者の心理を理解し生活指導方法の学習を深める。4. 健康生活支援のあり方の理解を深める。</p>	共同
	成人看護学概論	<p>成人期にある人の特徴についてライフサイクル、生涯発達の視点から理解すると共に、ライフスタイルや環境から生じる健康問題と健康レベルに応じた看護アプローチの基本を理解する。成人期にある人の特徴に基づき、家庭や職場・地域社会における役割を持つ人々の日常生活および健康問題に対する理解を深め、成人期にある人の健康生活を支援する看護について学修する。</p> <p>到達目標：1. 成人期にある人の特徴についてライフサイクル、生涯発達の視点から説明できる。2. 成人期にある人を取り巻く環境と生活について説明できる。3. 成人を取り巻く保健、医療、福祉システムの概要を説明できる。4. 成人期にある人の健康を構成する要素を説明できる。5. 成人期にある人の生活の多様性および健康破綻をもたらす要因を説明できる。6. 成人期にある人の看護に有用な概念および援助技術について説明できる。7. よりよい看護を提供するための看護的思考プロセスについて説明できる。</p>	

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
成人看護学	健康の慢性的揺らぎのある成人の看護	慢性疾患やがんの発症およびその経過途上における健康の慢性的な揺らぎのある成人とその家族の特徴を理解し、QOLを維持・向上していくための日常生活管理に必要な看護について学修する。慢性疾患やがんが人体に及ぼす影響および対象者とその家族の心理・社会的状況について理解し、長期にわたる健康の自己管理支援に向けた看護の基礎的知識を修得する。到達目標：1.慢性疾患やがんによる人体への影響について説明できる。2.成人とその家族の体験と反応および健康問題の特徴を説明できる。3.成人とその家族に対する看護の役割を説明できる。4.呼吸・循環・脳神経・消化器・腎泌尿器・代謝系における身体観察から健康の揺らぎについて判断できる。5.成人とその家族に対する日常生活の自己管理支援の根拠が説明できる。6.治療・検査および長期にわたる健康管理の目的と看護上の問題について説明できる。7.成人とその家族の理解を促進するために必要な理論について説明できる。 (オムニバス方式/全15回) (⑧ 平山恵美子/11回) 健康の慢性的揺らぎのある成人とその家族の理解 健康の慢性的揺らぎのある成人への看護援助の基本となる看護理論 呼吸器系の健康障害をもつ人とその家族の看護(1)(2) 循環器系の健康障害をもつ人とその家族の看護(1)(2) 腎・泌尿器系の健康障害をもつ人とその家族の看護(1)(2) 消化器系の健康障害をもつ人とその家族の看護 がん看護(1)(2) (⑩ 清水詩子/2回) 代謝系の健康障害をもつ人とその家族の看護(1)(2) (⑪ 田口めぐみ/2回) 脳神経系の健康障害をもつ人とその家族の看護(1)(2)	オムニバス
	急激な健康破綻をきたした成人の看護	急激な発症あるいは疾病の急性増悪やけが、手術などの生体侵襲により急激な健康破綻をきたした成人とその家族の特徴を理解し、危機的状況乗り越え、生活を再構築するために必要な看護について学修する。生体侵襲が人体に及ぼす影響および対象者とその家族の心理・社会的危機について理解し、生命の維持や健康の回復に向けた看護の基礎的知識を修得する。 到達目標：1.急激な健康破綻、生命の危機的状況をもたらす生体侵襲と人体への影響。2.急激な健康破綻をきたした成人とその家族の体験と反応および健康問題の特徴。3.急激な健康破綻をきたした成人とその家族に対する看護の役割。4.呼吸・循環・脳神経・代謝系における生体情報の観察から生命の危機的状況を判断。5.急激な健康破綻をきたした成人とその家族に対する日常生活援助の根拠。6.治療・検査機器および生命維持装置の目的と看護上の問題。7.急激な健康破綻をきたした成人とその家族の理解を促進するために必要な理論。以上について説明できる。	講義14 アクティブラーニング・ ジグソー法16
	成人看護技術演習	慢性系では、既習の知識・技能を統合しながら、健康の慢性的な揺らぎのある成人とその家族への支援を演習（事例演習・技術演習）を通して修得することを目的とする。 急性系では、急激な健康破綻をきたした成人に必要な看護技術について事例を通して学修する。模擬患者やシミュレーターを活用し具体的状況を設定した事例において、「急激な健康破綻をきたした成人の看護」で学んだ知識に基づいて臨床判断を行い、優先順位に従い問題解決するとともに時間管理を行うなど実践的に学修する。また状況設定のための準備、後片付けについても実践的に学ぶ。	共同 演習16 講義+演習14
専門教育に照	健康の慢性的な揺らぎのある成人の看護実習	慢性的な疾病や障害を有する成人とその家族への看護のあり方を理解しながら、対象者の状態に応じた看護過程を展開し、対象が慢性的な揺らぎを持ちながらも生活に折り合いをつけてその人らしく生きることを支援するための看護実践能力を養うことを目的とする。 到達目標：1.慢性的な揺らぎとともに生きる対象の身体的・精神的・社会的な特徴を説明できる。2.慢性的な揺らぎとともに生きる対象の看護計画を科学的根拠に基づいて立案できる。3.受け持ち患者に対して、倫理的配慮に基づく看護実践と評価ができる。4.受け持ち患者がその人らしい生活を継続するために必要な他職種との連携について考えることができる。	共同 演習2 実習16 自己学習2

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
関 する 授 業 科 目 (専 門 教 育 科 目)	急激な健康破綻をきたした成人の看護実習	急性疾患の発症や慢性疾患の急性増悪、あるいは侵襲のある治療を受けるなど、急激に健康破綻をきたした成人と家族の特徴を理解し、身体面、精神面、社会面の変化の視点から対象の反応を捉え、その反応に即した適切な看護を実践する臨床判断の基礎的能力を養うことを目的とする。 到達目標：1. 急激な健康破綻をきたした患者の看護に必要な観察を行い、病期と病状の判断ができる。2. 急性状況からの回復の促進、あるいは苦痛緩和のための看護実践を理解できる。3. 受け持ち患者に対して、倫理的配慮に基づく看護実践とはなにかが理解できる。	共同 演習2 実習16 自己学習2
	老年看護学概論	発達段階の老年期を生きる人の加齢や病気に伴う諸変化を理解し、身体的、精神心理的、社会的側面から高齢者の健康及び生活への影響について学修する。また、高齢社会における今日的課題や高齢者をとりまく保健・医療・福祉の社会的状況から、高齢者の倫理的課題と対応策について考察し、高齢者看護の役割・機能を学ぶ。そして、人生の最終段階を生きる高齢者の終末期医療について理解を深め、その人らしい最期を迎えられるようにするための看護について考察する。 (オムニバス方式/全8回) (⑩ 成澤幸子/5回) 老年看護の概念 老年期の社会的変化 加齢変化(1)(2) 授業のまとめ (⑧ 平山恵美子/3回) 高齢者を取り巻く社会資源 高齢者と倫理 老年期の健康と今後の課題	オムニバス
	老年の疾病と治療	高齢者の生理的特徴、疾患と治療の特徴を学ぶ。生理的特徴として認知・呼吸・循環、消化・吸収・排泄・運動・免疫機能の老化、疾患と治療の特徴として認知症、精神・神経疾患、呼吸・循環器疾患、消化器疾患、内分泌・代謝疾患、自己免疫疾患、血液疾患、運動器疾患腎泌尿器疾患、皮膚・泌尿器疾患、歯・口腔疾患と薬物療法を学ぶ 到達目標：1. 高齢者の加齢変化と特徴について説明できる。2. 高齢者の疾患特徴について説明できる。3. 高齢者に多い疾病について系統的に学び、その疾患の症状及び治療、看護について説明できる。4. 高齢者と薬物療法について特徴と課題について説明できる。	
	老年看護学実践論	老年看護学概論で学習した高齢者看護の基本的な知識、および老年の疾病と治療の知識をもとに、生活機能及び健康障がい有するあらゆる健康段階にある高齢者とその家族の特徴を理解し、アセスメントの視点を学ぶ。また、個々の高齢者とその家族のセルフケア能力を高めることができ、主体的かつよりよい生活を営むための具体的な看護方法を学ぶ 到達目標：1. 高齢者の生活機能を整える看護の知識と技術を習得する。2. 高齢者のあらゆる健康段階における特徴について説明し、看護の特徴について説明できる。3. 治療処置、各経過別看護における高齢者ケアの特徴について説明できる。4. 国際生活機能分類(ICF)について理解し、その特徴について説明できる。5. ICFを用いた看護の必要性について事例を通してアセスメント、計画立案することができる。6. 行った看護の評価方法について学習し、記載することができる。 (オムニバス方式/全8回) (⑩ 成澤幸子/1回) 科目履修ガイダンス 高齢者と病期の特徴と看護 (⑩ 成澤幸子 16 山崎陸世 20 橋本有紀/7回) (共同) 老年看護と看護過程(1)～(6) まとめ	オムニバス・共同(一部) 講義14 講義+演習2
	老年看護技術演習	生活機能及び健康障がい有するあらゆる健康状態にある高齢者の特性に配慮し、高齢者の持てる力を引き出すコミュニケーション技術や、高齢者の予備能力・残存能力を活かす生活援助技術について学修する。具体的には、グループで事例に適したアセスメント及びケアプランの立案を行った後、ロールプレイによって高齢者看護技術を学びあう。 到達目標：1. 高齢者の生活機能を整える看護の知識と技術を習得する。2. 高齢者の日常生活活動への援助技術について、根拠を踏まえて説明でき、実施できる。3. 高齢者とのコミュニケーションについて学び、具体的方法について説明できる。4. 認知症高齢者への生活リズム、レクリエーションの必要性について体験を通して理解し、実践方法について説明できる。5. 認知症高齢者への看護について、最近の動向を含め理解する。6. すべてのケアの理解を通して高齢者への深い人間愛を育むことができる。	共同 講義18 演習12

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
小児看護学	老年看護学実習	老人保健施設で生活する健康及び生活機能障がいをもつ高齢者やその家族との関わりを通して、高齢者の今まで生きてきた人生背景から高齢者全体像を深める。また、高齢者の生活機能の維持・向上を目指したアセスメント及びケアプランを立案・評価し、個々の高齢者に合わせた看護実践を学ぶ。加えて、地域のなかで位置づけられる様々な施設間の連携や多職種との連携・協働を通して、老人保健施設における看護師の役割・機能を考察する。	共同
	小児看護学概論	小児看護学の基本的概念枠組みである発達・健康・生活の理解に基づき、乳幼児期、学童期、思春期・青年期の、身体的・心理的・社会的特徴を理解し、成長・発達の特徴と課題を学ぶ。近年の子どもを取り巻く環境との相互作用を理解し、成長・自律・セルフケアに向けた小児看護の役割を理解する。また、次世代を担う子どもが健やかに心と身体を育むことができるよう、小児保健の動向及びヘルスプロモーション、子どもの健康に関わる制度、地域の資源等を学び、看護の視点から支援するための基礎となる考え方を学修する。	
	小児の疾病と治療	小児の特徴、疾患と検査・治療の特徴を学ぶ。小児の発達と障害、先天異常による疾患、新生児疾患、代謝性疾患、内分泌疾患、感染症、循環器疾患、腎・泌尿器疾患、消化器疾患、血液疾患を学び、疾病や検査・治療による心の影響や生活の変化について学ぶ。 到達目標：1. 先天異常、新生児の疾患を理解できる。2. 小児の代謝性疾患、内分泌疾患、免疫疾患、アレルギー疾患、感染症を理解できる。3. 小児の呼吸・循環器疾患を理解できる。4. 小児の消化器疾患、血液造血管疾患、悪性疾患が理解できる。5. 小児の腎・泌尿器疾患、神経疾患、運動器疾患が理解できる。	
	小児看護学実践論	健康課題・障害及び入院が、小児と家族に及ぼす身体的・心理的・社会的影響を理解する。また、発達段階により小児が陥りやすい健康課題(症状)・障害の経過の特徴を踏まえたアセスメントの視点、発達段階に応じた看護方法、診療に伴う援助技術をグループ学習等を通して学ぶ。 到達目標：1. 小児の各発達段階にみられる日常的な健康問題と看護を理解する。2. 入院生活をしている子どもへのケアの基本となる援助的アプローチが理解できる。3. 小児各期の特徴を踏まえたヘルスアセスメントの技術について学習する。4. 小児期に特徴的な診療(治療・処置・検査・診察)上の看護援助を理解する。5. 子どもの健康課題が、成長発達や生活に与える影響を理解する。6. 健康課題を持つ子どもの看護について、保健医療・福祉支援機関をふまえて学習し、小児看護のあり方を考察する。 (オムニバス方式/全8回) (10 中垣紀子/2回) 子どものアセスメントに必要な援助技術 障がいのある子どもと家族への看護 (14 坪川麻樹子/4回) 子どもの検査・処置体験とプレバレーション 手術を受ける子どもと家族への看護 慢性期にある子どもと家族への看護 小児がんをもつ子どもと家族への看護 (17 五十嵐真理/1回) 急性期にある子どもと家族への看護 (10 中垣紀子・14 坪川麻樹子・17 五十嵐真理/1回) (共同) 小児看護における看護過程	オムニバス・共同 (一部)
	小児看護技術演習	成長・発達途上である子どもが、健康課題を抱えることの身体的・心理的・社会的な影響を踏まえ、小児とその家族の尊厳及び子どもと家族の個別性と発達段階に応じた看護援助を行うための方法を学修する。 到達目標：1. 子どもにとって安全安楽な入院環境整備を実施。2. 子どもの成長発達・病気や障害による身体・心理・社会的影響を受けた子どもとのコミュニケーション。3. 健康段階に応じた子どもの看護の方向性。4. 検査・治療を受ける子どもに対する、プレバレーション。5. 子どもの成長発達に応じた形態機能学的特徴を踏まえたフィジカルアセスメント。6. 子どもの口腔・嚥下・消化機能に応じた栄養摂取方法と具体的支援。7. 検査を受ける子どものアセスメントの視点と具体的支援。8. 与薬を受ける子どものアセスメントの視点と具体的支援。9. 子どもの成長発達および健康段階、家族を含む社会的背景を踏まえた小児看護技術の重要性。などについて実施する。	共同

区科目目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	小児看護学実習	保育園実習では、子どもの成長発達及び個性によって異なる日常生活行動と、それに対する具体的な支援を理解する。病院実習では、子どもが抱える疾病や障がい、入院に伴う生活環境の変化によって、子どもと家族に生じた看護上の問題を把握し、注目すべき問題について根拠をもって看護計画を立案し、実施・評価する。そのプロセスを通し、子どもと家族に個別的で適切な看護を実施できる基礎的能力、小児看護にかかわる看護職としてふさわしい考え方や態度を修得する。	共同
母性看護学	母性看護学概論	母性及び母性看護学の基盤となる概念を学び、母性看護の意義と役割について理解する。母子に関する統計、関係法規、制度、生活環境から母子保健の動向を理解し、社会の変化に対応した母性看護の在り方について考える。母性看護の対象を理解するために、生殖生理、女性のライフサイクル各期における身体的・心理的・社会的特徴と健康課題について学び、健康を支援する看護について考える。 到達目標：1.母性看護の基盤となる概念。2.母性看護実践を支える概念。3.リプロダクティブヘルス/ライツ。4.生物学的性、社会的性や性の多様性。5.リプロダクティブヘルスの動向。6.生殖に関する生理。女性のライフステージ各期の健康と看護。7.妊孕性に関わる不妊に関する健康問題の特徴と支援。8.加齢による女性のホルモン変化による健康問題と看護。9.リプロダクティブヘルスに関する倫理的課題。等について説明できる。	
	女性の疾病と治療	女性のライフステージにおける産婦人科疾患の病態について生理学的・病理学的に学び、診断・治療の最新の知識を学ぶ。妊娠・分娩・産褥・新生児の基礎を踏まえ、産科疾患の病態・診断・治療を統合的に教授する。 到達目標：1.女性生殖器の構造と機能を説明できる。2.婦人科・乳腺科で行われる診察・検査・処置とその看護のポイントを説明できる3.周産期の正常経過の概要が分かる4.月経異常、性感染症、性分化疾患、不妊症、不育症、の病態、検査、治療を説明できる。5.女性生殖器疾患の病態、検査、治療を説明できる。6.性分化疾患、子宮形態異常とその看護が理解できる。7.加齢によるホルモン変化と健康障害を説明できる。8.周産期において起こる異常と疾患を説明できる。 (オムニバス方式/全8回) (① 定方美恵子/2回) 女性生殖器の構造と機能 婦人科・乳腺科で行われる診察・検査・治療・処置とその看護 妊娠・分娩・産褥・新生児期の正常な経過 (74 石田道雄/6回) 月経に関連する疾患 性器の炎症・性感染症 子宮の疾患 卵巣の疾患 乳房の疾患 性分化疾患・性器形態異常 不妊症・不育症 セクシュアリティに関連する健康問題 妊娠・分娩・産褥期の異常と疾患 新生児期の異常と疾患	オムニバス
	母性看護学実践論	妊娠・分娩・産褥・新生児期にある対象について、身体的、心理的、社会的変化と特徴、家族の機能と発達について教授する。対象の特徴について理解するとともに、健康状態をアセスメントし、健康を保持するための看護支援、新しい家族を迎える人々に対する看護支援について考える。妊娠・分娩・産褥・新生児期における正常からの逸脱と看護、特殊なニーズを持つ妊産婦と家族への支援と看護について講義する。	
	母性看護技術演習	妊娠・分娩・産褥各期にある女性と新生児の看護を実践するために、母性看護に特有な看護技術を習得し、健康問題を分析し解決に導く思考過程を修得する。母子の援助に必要とされる基本的看護技術の目的、適応、方法を理解し、演習を通して対象に応じた技術を実践する能力を修得する。 到達目標：1.ウエルネス志向の看護過程展開技術を理解できる。2.妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期における対象の健康状態を正しく把握するための観察技術を習得する。3.妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期における対象の健康状態を評価するための情報を収集し、統合できる。4.母子の健康状態をウエルネス志向でアセスメントすることができる。5.母子の健康状態を促進させる為の看護支援ならびに母子やその家族の子育てへの移行を支援するケア技術を習得できる。	共同 演習8 講義+演習6 演習+GW4 GW8 発表4

区科分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	母性看護学実習	<p>周産期にある母子とその家族が経験する様々な身体・心理・社会的特性を理解し、看護による援助方法や健康支援、地域で生活する対象への包括的な看護について学ぶ。保健医療チームの連携、育児を継続して支援するための社会資源を理解し、女性と子どもの健康に関わる保健医療チームのあり方や倫理的視点を実践の中で学ぶ。</p> <p>到達目標：1. 周産期にある母子とその家族の身体・心理・社会的特性を踏まえ必要な情報を収集。2. 健康課題、基本的ニーズを看護実践を通してアセスメント。3. 必要な看護援助方法。4. 地域看護に繋がる包括的な看護実践を展開するためにウェルネス志向の視点から、よりよい保健医療サービスのあり方を提案。5. 子育て支援センターの実習を通して、女性と子どもとの健康に関わる保健医療チームのあり方をアセスメント。6. 子育て期に関わる関係職種のアプローチと倫理的視点。7. 育児を継続して支援するための社会資源。等について理解できる。</p>	共同
精神看護学	精神看護学概論	<p>精神的に問題を抱える対象の理解は、時代とともに変化してきた。精神的問題を抱える対象には健康者も含まれる。精神看護学概論では次の3つの視点で教授する。①精神障害者に対する社会の見方の変遷と精神医療史、精神看護史②精神看護の理論（ペプロウの精神力動看護・オレム・アンダーウッドのセルフケア理論）と精神看護③精神障害に関する法規</p> <p>到達目標：1. 心の健康と障害を理解し、精神看護の基礎について理解できる。2. 精神障害者に対する社会の見方の変遷と精神医療史、精神看護史を学習し、精神障害者への偏見の問題について考える事ができる。3. 精神看護の理論（ペプロウの精神力動看護・オレム・アンダーウッドのセルフケア理論）を学び、精神障害者のアセスメントの基本事項を理解できる。4. 精神障害に関する法規について理解できる。5. 精神障害者の人権擁護について理解できる。</p>	
	精神の疾病と治療	<p>精神疾患の病因、主な症状・状態、主な検査・心理検査と診断・分類、治療を学ぶ。主な精神疾患として、自閉症スペクトラム障害(ADS)、統合失調症、うつ・双極性障害、不安障害、脅迫性障害、解離性障害、摂食障害、パーソナリティ障害など精神疾患や精神症状についての基本的知識を学び、看護における視点の理解につなげる。</p> <p>到達目標：1. 精神医療の歴史の変遷と、精神医療に関する関係法規を理解する。2. 精神科治療の内容（非薬物療法・薬物療法）を概説できるようになる。3. 主要な精神疾患における精神症状の理解ができる。</p>	
	精神看護学実践論	<p>精神機能の障害が及ぼす日常生活および身体への影響について、看護の視点から考える。また、代表的な精神疾患の知識を基盤に、精神に機能障害をもつ人に必要な治療的介入や看護技術を、法律・制度を踏まえた上で、実際の演習やグループワーク等を通して学ぶ。また、精神機能に障害をもつ人とその家族が抱える健康問題について、看護事例を取り上げ、その人らしいQOLを目標に、精神看護の技法を活用し、看護の方向性を考え、看護過程の展開について理解する。さらに、看護師自身のメンタルヘルス、ストレスマネジメントにも触れる。</p>	
	精神看護技術演習	<p>精神機能の障害が及ぼす日常生活および身体への影響について、看護の視点から考える。また、代表的な精神疾患の知識を基盤に、精神に機能障害をもつ人に必要な治療的介入や看護技術を、法律・制度を踏まえた上で、実際の演習やグループワーク等を通して学ぶ。また、精神機能に障害をもつ人とその家族が抱える健康問題について、看護事例を取り上げ、その人らしいQOLを目標に、精神看護の技法を活用し、看護の方向性を考え、看護過程の展開について理解する。さらに、看護師自身のメンタルヘルス、ストレスマネジメントにも触れる。</p>	共同
	精神看護学実習	<p>精神の健康問題により日常生活や対人関係に困難を抱える対象者とのコミュニケーションを通して、対象者－看護師関係を形成するための技法を学ぶ。さらに、援助関係を築きながら成育歴、生活歴を含め「身体的、精神的・霊的（スピリチュアル）、社会的」な視点からも対象者を捉える。対象者の問題点だけでなく、健康な部分に関わる看護ケアの実践多職種チームの中での看護師の役割、対象者の生活環境、精神科治療の実際と地域精神保健福祉について学ぶ。また、生活支援、就業支援事業所での実習を通し、精神障害者社会復帰支援について学ぶ。</p>	共同

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	チーム医療論	<p>保健、医療、福祉を含めた統合的ケアサービスを提供するために、患者や障害を抱える人の問題に対してどのようにチームアプローチする必要 があるかを検討するための基礎的知識を学ぶ。</p> <p>到達目標：1. 医療の流れ、チーム医療の必要性と意義を理解できる。2. 我が国における医療提供システム及び他の専門職への理解を深める。3. 医療の質向上・安全性の確保にチーム医療がどのような成果をもたらすかを理解できる。4. チームを構成する職能・その機能と役割について理解できる。5. チーム医療における倫理に関する基本的な知識を習得する。6. 専門職間のコミュニケーションの重要性を理解できる。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(⑦ 戸田肇/2回) オリエンテーション チーム医療とは何か メディカルスタッフとチーム医療のまとめ</p> <p>(① 定方美恵子/2回) チームメンバーの専門性と役割と仕事内容 チーム医療における看護師の役割</p> <p>(⑤ 小山歌子/2回) チーム医療の要素と6つの困難 チーム医療を考え当事者の生活を支えるこれからの多職種協同</p> <p>(④ 古地順子/2回) チーム医療の実際と課題 チーム医療ワークショップの発表</p>	オムニバス
	チーム医療実習	<p>既習の知識・技術を統合し、チーム医療を担う一員として看護を実践できる能力を養う。チーム医療における協働・連携について理解を深め、複数の看護の対象となる人々に対し、根拠に基づく看護をチームで実践する。既習の知識・技術を統合し、チーム医療を担う一員として看護を実践できる能力を養う。対象の健康課題の解決に向け、多職種と協働・連携してチームアプローチする方法を検討、実践する過程を学ぶとともに、チーム医療及びチーム医療における看護の役割についての理解を深める。</p>	共同
	看護管理学	<p>看護管理は管理職のみが理解していれば良いというのではなく、スタッフナースも含め、全ての看護師が理解しておくべき看護の考え方である。また、看護を統合する学問でもある。人的資源管理、物品管理、財務管理、情報管理など看護管理に関する基礎的知識を学び、医療安全、暴力対策、災害対策、リーダーシップの在り方及び看護部門についての経営的視点を養えるように、経営戦略も含めて、グループワークを行うなど、講義と演習を混ぜながら、看護管理の概要を理解でき、自らのキャリアプランニングができる視点を身につける。</p>	
	看護管理学実習	<p>病院における防災体制、安全管理に関する見学を行うと共に、病棟師長・主任が果たしている役割を理解するために、シャドーイングを行い、また、メンバーシップの理解のために、看護師の援助活動に共に参加し、あるいは看護師以外のスタッフの業務の補助を行うことにより、看護管理的な視点で病棟業務を理解する。</p> <p>到達目標：1. 病院・病棟における防災体制、安全管理。2. 看護管理者の果たす役割。3. メンバーシップ。4. 多職種の活動。5. 適切な実習態度、教員、スタッフとの円滑なコミュニケーション。6. 病棟スタッフの患者についての病棟運営上のアセスメントを行う。7. 事故報告体制。8. インシデントレポート等の報告システム。等について説明できる。</p>	共同

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
看護 の 統 合 と 課 題 探 究	看護研究の基礎	<p>大学で看護研究することの意義を理解し、看護実践の中で生じた疑問や課題を科学的に探究するには研究方法論を学ぶ必要があることを知る。さらに研究課題を絞り込むための保健医療福祉に関する文献検討を通して批判的・論理的思考およびプレゼンテーション力、看護研究者としてのマナーを学び、各自が「看護研究演習Ⅰ」に臨む準備ができるようにする。</p> <p>到達目標：1. 大学で看護研究することの意義、看護学の発展に果たす役割について説明できる。2. 看護研究の遂行に伴う倫理的問題とその配慮について説明できる。3. 看護研究で用いられる代表的な研究デザインの概要を知り、その特徴を説明できる。4. 保健医療福祉に関する文献を批判的・論理的に検討できる。5. クリエイティブな結果をプレゼンテーションでき、その内容について討議できる。6. 看護学研究者としての基本的な態度が理解できる。7. 「看護研究演習Ⅰ」に臨む準備ができる。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(⑦ 戸田肇/3回) 看護研究の意義 看護研究と倫理 研究方法論(2) 研究デザイン質的研究 (③ 日下修一/1回) 研究方法論(1) 研究デザイン量的研究 (3 石綿啓子/1回) 研究方法論(2) 研究デザイン実験的研究 (9 戸田肇、⑥ 篠原百合子/1回) (共同) 保健医療福祉における文献活用 (9 戸田肇・3 石綿啓子・⑤ 小山歌子・② 野原真理・5 古地順子・⑧ 平山恵美子・⑩ 成澤幸子・10 中垣紀子・① 定方美恵子・⑥ 篠原百合子・③ 日下修一/2回) (共同) 文献クリティーク(1) 批判的読み方の実際 文献クリティーク(2) 看護研究演習に臨む準備</p>	オムニバス・共同 (一部) 講義12 講義+演習4
	看護研究演習Ⅰ	<p>「看護研究の基礎」での学習を基盤とし、看護学臨地実習の現場で起こっている事象に問題意識を持ち、大づかみに描いた研究課題に関連した看護学領域の担当教員の指導を受ける。研究課題に関する文献のクリティークを通して研究課題を絞り込んで研究目的を明確にし、どのような研究方法論を用いて、どのような対象に、倫理的配慮をしながらどのような方法でデータ収集し、分析するのか研究計画書を作成する。この取り組みを通して「看護研究演習Ⅱ」へとつなげていく。</p>	共同
	看護研究演習Ⅱ	<p>「看護研究演習Ⅰ」で作成した研究計画書をもとに看護研究を行い、論文を作成し、研究成果を発表する。本学での学びの集大成となる取り組みを通して、研究者としての態度を身につけ、看護職者として自らの課題を見出し、追究していくための想像力および創造力を身につける。</p> <p>到達目標：1. 研究計画に沿ってデータ収集ができ、その事実から論理を引き出すことができる。2. 論旨の一貫性、根拠の明確性を持ち、論文作成のルールに則った表現で論文を作成することができる。3. 研究成果を学内発の表会に向けてパワーポイントを作成することができる。4. 研究成果を学内発の表会において口頭発表することができる。5. 研究者の立場に立って質問することができる。6. 質問者の立場に立って応答することができる。7. 集大成となる一連の取り組みを通して、研究者としての態度を身につけることができる。</p>	共同
	災害看護学	<p>災害看護の概念、分類とサイクル、援助活動と支援ネットワーク、備えとリスクの軽減に関する枠組みについて学び、保健医療チームのメンバーとその個人、家族、コミュニティと協働して、災害直後から支援できる看護の基礎的知識について理解を深める。</p> <p>到達目標：1. 災害の概念・分類とサイクルを説明できる。2. 災害時の健康障害について説明できる。3. 災害看護の特殊性について説明できる。4. 防災の重要性とその実際について説明できる。5. 災害時における人々の生命や健康障害を支えるために必要な災害看護の基礎的知識を示すことができる。6. 災害時に求められるところのケア(被災者・救済者)を説明できる。7. 災害時における国際的な協力活動を知る。</p>	

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	国際看護学	<p>国際看護および国際保健に関わる国際機関の役割と機能、社会的・経済的な諸問題に焦点をあて、その多様性を学ぶ。異文化理解と看護の視点、異文化コミュニケーションに基づく看護を含め、グローバルな環境課題や問題が及ぼす人々の健康への影響と国際看護の役割と支援方法を学ぶ。</p> <p>到達目標：1. 世界の人々の健康課題に対する国際看護学の基本的な考え方と方法論について理解できる。2. 看護における国際的視野の重要性および国際看護学の課題について考えることができる。3. 国際看護にかかわる主要概念（国際協力、国際看護の目的）について説明できる。4. 世界の感染症の動向と対策について説明できる。5. 世界各国のプライマリーヘルスケアへの対策と実態について説明できる。6. 国際看護組織の活動と成果について説明できる。7. 看護の国際化に関する現状と課題について説明できる。8. 国際協力活動の実際について説明できる。</p>	講義12 演習4
	看護教育学	<p>看護学教育は、看護とは何かを学問的に解いた教育内容を社会に提示し、学生や看護職者の看護実践能力を育むことを第一義としている。そこで、看護学教育の変遷を辿り、教授-学習過程の実際から自己の体験と知識を人々のより健康的な生活を支える看護の知恵として活用する学修の方向性と方法について再確認する。そして、若者の特徴を踏まえ、看護実践能力を発展させる方法を知り、看護のプロフェッショナルとしての生涯学習の方向性を思い描けるようにする。</p>	
	新たな医療と看護の課題	<p>目まぐるしく変化する 医療・看護における最新の知識・技術を学ぶことで、将来、保健・医療・福祉領域でキャリアアップできる看護職として、自己研鑽するための必要性を確認し、学習方法を学ぶ。各論としてオムニバス方式で開講し、看護の各専門領域における最新医療及び看護研究の知見に基づいた看護学および看護技術に関わるトピックスとして、各専門領域の診療基準（ガイドライン）の改正、感染症対策の変更点、地域包括ケアの動向など、最新の知見の学習をさらに深める。</p> <p>（オムニバス方式/全15回）</p> <p>① 定方美恵子/3回 母性看護の新たな課題 (1) (2) まとめ ⑥ 篠原百合子/1回 地域精神医療の課題 ⑦ 戸田肇/2回 健康問題と看護 医療と緩和ケア ⑤ 小山歌子/2回 在宅看護の新たな課題 (1) (2) ④ 古地順子/2回 低侵襲治療と看護 再生医療と看護 ⑩ 中垣紀子/2回 病気の子どもの力を引き出すサポート AYA世代のがんの看護 ⑩ 成澤幸子/2回 老年看護の課題とロボット工学の発展 アクティブ高齢者に向けて ⑩ 青柳玲子/1回 2030年問題の理解</p>	オムニバス
	新潟の医療と看護の課題	<p>新潟県における保健・医療・福祉の実際と課題を理解し、これまでの学修を総合的に活用し、医療と看護の課題や展望を考察する。介護、障がい者支援、子育て支援などの個別テーマを設け、地域特性を考慮した効果的な課題解決に向けて、看護の課題と役割の分析を深める。単に、新潟県の課題の分析に終わるのではなく、日本国内、海外においても、活用ができるよう学習の過程を重視して展開する。</p> <p>（オムニバス方式/全8回）</p> <p>① 定方美恵子/3回 新潟県ならびに各地域の地理や文化、産業の特徴 新潟県の行政上、医療・保健・福祉の政策課題 新潟県の保健・医療・福祉に関わる課題の分析～導入～ ① 定方美恵子、23 諸橋麻紀、22 巳亦圭子、21 ブロード裕子/5回（共同） 新潟県の保健・医療・福祉に関わる課題の分析(1)～(3)テーマ別発表(1)(2)</p>	オムニバス・共同（一部） 演習6 講義+演習10

学校法人新潟科学技術学園 設置認可等に関する組織の移行表

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	→	令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
新潟薬科大学					新潟薬科大学				
薬学部 薬学科(6年制)	180	-	1,080		薬学部 薬学科(6年制)	<u>130</u>	-	<u>780</u>	定員変更(△50)
応用生命科学部 応用生命科学科	120	-	480		応用生命科学部 応用生命科学科	120	-	480	
応用生命科学部 生命産業創造学科	60	-	240		応用生命科学部 <u>生命産業ビジネス学科</u>	<u>45</u>	-	<u>180</u>	名称変更 定員変更(△15)
					<u>医療技術学部 臨床検査学科</u>	<u>60</u>	-	<u>240</u>	学部の設置(認可申請)
					<u>看護学部 看護学科</u>	<u>80</u>	-	<u>320</u>	学部の設置(認可申請)
計	360	-	1,800		計	<u>435</u>	-	<u>2,000</u>	
新潟薬科大学大学院					新潟薬科大学大学院				
薬学研究科 薬学専攻 (4年制D)	3	-	12		薬学研究科 薬学専攻 (4年制D)	3	-	12	
応用生命科学研究科 応用生命科学専攻 (M)	8	-	16		応用生命科学研究科 応用生命科学専攻 (M)	8	-	16	
応用生命科学研究科 応用生命科学専攻 (D)	3	-	9		応用生命科学研究科 応用生命科学専攻 (D)	3	-	9	
計	14	-	37		計	14	-	37	
新潟工業短期大学					新潟工業短期大学				
自動車工業科	120	-	240		自動車工業科	120	-	240	
専攻科(自動車工学専攻)	10	-	20		専攻科(自動車工学専攻)	10	-	20	
計	130	-	260		計	130	-	260	
新潟医療技術専門学校					新潟医療技術専門学校				
臨床検査技師科(3年制)	40	-	120		<u>臨床検査技師科(3年制)</u>	<u>0</u>	-	<u>0</u>	令和4年4月学生募集停止
視能訓練士科(3年制)	40	-	120		視能訓練士科(3年制)	40	-	120	
救急救命士科(3年制)	40	-	120		救急救命士科(3年制)	40	-	120	
看護学科(3年制)	80	-	240		<u>看護学科(3年制)</u>	<u>0</u>	-	<u>0</u>	令和4年4月学生募集停止
計	200	-	600		計	<u>80</u>	-	<u>240</u>	